

第2次宇都宮市読書活動推進計画



平成30年3月
宇都宮市教育委員会

目次

I	計画について	
1	計画策定の趣旨	・・・ 1
2	計画の位置付け	・・・ 2
3	計画期間	・・・ 2
II	読書活動推進の現状と課題	
1	読書活動を取り巻く状況	・・・ 3
2	これまでの取組の成果と課題	・・・ 8
3	市民の読書活動の状況	・・・ 12
4	今後の読書活動推進の課題	・・・ 21
III	基本的な考え方	
1	基本理念	・・・ 23
2	基本目標	・・・ 24
3	計画の体系	・・・ 26
IV	施策の展開	
	基本目標Ⅰ（施策1～施策4）	・・・ 27
	基本目標Ⅱ（施策5～施策8）	・・・ 32
	基本目標Ⅲ（施策9～施策11）	・・・ 36
	基本目標Ⅳ（施策12～施策13）	・・・ 40
V	計画の推進	
1	計画の進行管理	・・・ 42
2	計画の推進体制	・・・ 42
	■資料編■	
	資料1 計画の策定体制	・・・ 44
	資料2 計画策定の経緯	・・・ 45
	資料3 アンケート調査結果	・・・ 46
	資料4 用語解説	・・・ 69



I 計画について

1 計画策定の趣旨

本市におきましては、平成25年6月に策定した「宇都宮市読書活動推進計画」(以下、「第1次計画」という。)に基づき、読書活動が市民や地域の課題解決に寄与し、一人ひとりが豊かな人生を送ることができるよう市民の読書活動の推進に努めてまいりました。

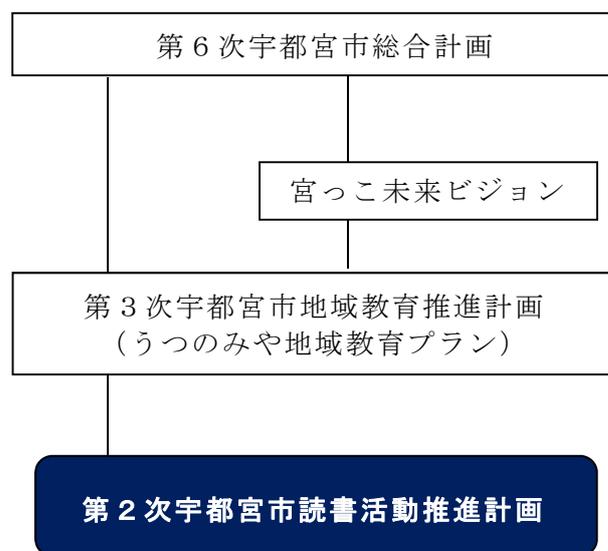
このような中、社会環境においては少子化・超高齢化の進行による人口減少、個人の関心やライフスタイルの多様化・複雑化が進み、読書活動を取り巻く状況として、情報通信技術(ICT)の進展に伴う資料の電子化等の技術活用や読書離れの深刻化が進むなど、課題は多岐にわたっています。

また、図書館は、市民の読書活動の拠点であるほか、社会の変化に対応した学習機会の提供や地域コミュニティの維持・活性化への貢献といった役割が求められており、今後とも、資料・情報を通じた学習機会の提供や、市民生活や地域の課題解決を図るサービスをさらに強化していく必要があると言えます。

こうしたことから、多様化するライフスタイルや高度化する市民ニーズに柔軟に対応し、市民が生涯にわたり読書活動に親しめるよう、平成29年度をもって計画期間が終了となる第1次計画を改定し、「第2次宇都宮市読書活動推進計画」を策定します。

2 計画の位置付け

- ・「宇都宮市地域教育推進計画」に基づき人づくりを進める中で、市民の読書活動の推進に焦点を当てた事業実施計画とします。
- ・本市における人づくりの指針である「宮っこ未来ビジョン」や上位計画である「宇都宮市地域教育推進計画」など、関連する計画等との整合を図るものとします。



3 計画期間

この計画の期間は、平成30年度（2018年4月）を開始年次とし、平成34年度（2023年3月）までの5か年計画とします。

ただし、社会情勢の変化や、計画の進捗状況等により必要に応じて見直しを行います。



Ⅱ 読書活動推進の現状と課題

1 読書活動を取り巻く状況

(1) 社会情勢の変化

ア 少子超高齢化の進行とライフスタイルの変容

急速に進む少子化、超高齢化により社会全体の人口構成のバランスが変化しつつあり、本市においても今後は人口が減少に転じる見込みとなっています。

また、ライフスタイルの多様化・複雑化に伴い、個々の関心事が多岐にわたり、社会的なニーズもなお一層広がりや深まりを見せています。さらに、人口減少や少子高齢化といった社会変化によって地域コミュニティが衰退し、つながりが希薄化するとともに、経済的格差が広がりを見せていることから、問題や困難を抱える人々が孤立しやすい状況となっています。このため、市民のさまざまな状況やニーズに応じた読書機会の提供が求められています。

イ 情報通信技術（ICT）やグローバル化の進展

情報通信技術（ICT）が急速に進展していることにより、読書の形態が変わりつつあります。電子化された書籍等が利用されるようになり、中でも貴重な紙資料については、デジタル情報で記録し保存するデジタルアーカイブ¹化が進んでいます。

また、東日本大震災後に一時減少した外国人登録者数や訪日外国人数が、再び増加傾向に転じています。平成32年度（2020年4月）からは小学校教育への外国語教育の全面導入が開始され、さらなる国際化の進展が見込まれます。

ウ 地域資料²の散逸

平成29年に行った市政に関する世論調査によると、「宇都宮市を好き・どちらかといえば好き」との回答は90%を超え、多数の市民が、住んでいる地域に愛着を持っています。そのような中、代替わりなどにより、市民が所有する貴重な地域資料の散逸が進んでおり、資料を保存することの重要性が高まっている状況です。

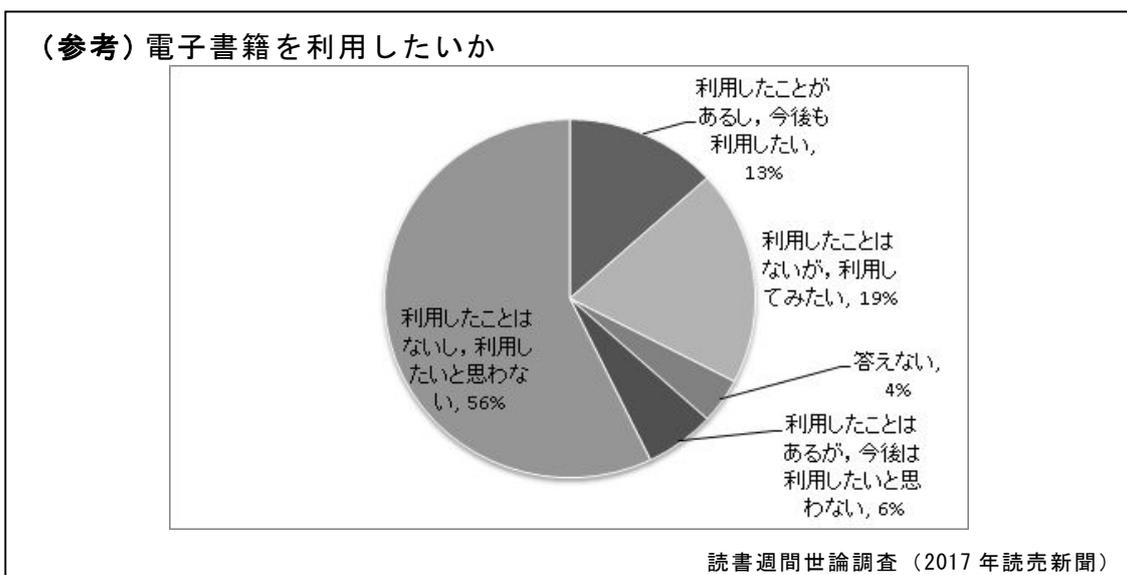
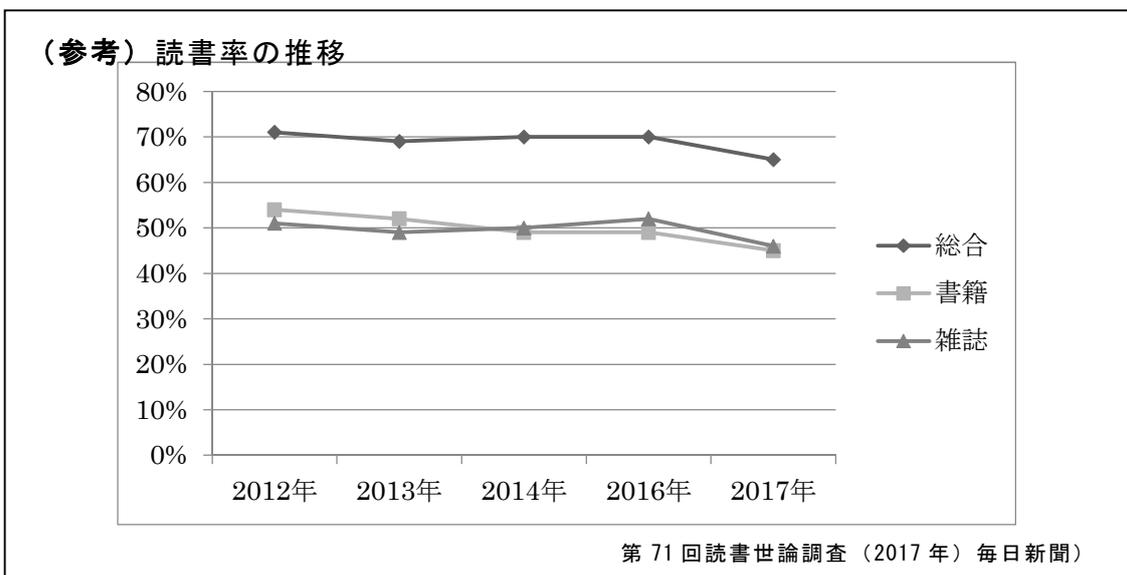
¹ デジタルアーカイブ…貴重な資料をデジタル情報で記録し保存する機能。市立図書館では地域資料について平成29年9月よりホームページで公開を開始している。

² 地域資料…宇都宮で発行された資料および出版地や出版社の規模は問わず宇都宮に関して記述されている資料のこと。

エ 読書を取り巻く環境の変化

平成29年の全国的な世論調査によると、普段、本・雑誌を読むと答えた人の割合（読書率）は65%であり、前年から減少しています。また本を読まない人の割合（不読率）は書籍が53%、雑誌が53%と増加傾向にあり、不読率が読書率を上回っています。

また、電子書籍については、出版市場の拡大は続いています。電子書籍の利用については「利用したことはないし、利用したいとも思わない」56%、「利用したことはあるが、今後は利用したいと思わない」6%を合わせ、消極派が62%と半数を超えている状況です。



(参考) 日本の出版物の販売額



「2017 出版指標 年報」より

(2) 国・県等の動向

ア 国の動向

平成28年5月の中央教育審議会における答申「個人の能力と可能性を開花させ、全員参加による課題解決社会を実現するための教育の多様化と質保証の在り方について」において、ニーズに応じた学習機会の提供と個人においては自己責任と判断で、地域社会においては住民の力を総合して、課題解決をしていくことが求められているとしています。

また、平成29年3月に公表された「人々の暮らしと社会の発展に貢献する持続可能な社会教育システムの構築に向けて 論点の整理（図書館等において）」（文部科学省）の中で、来館者へのサービスに加えて、来館が困難な市民に対し図書館が出向いてサービスを提供するアウトリーチ³活動を充実させることにより、高齢者や障がい者、困難を抱える人々等にも読書の機会を提供し、誰に対しても知的サービスを提供する施設として、地域のニーズに積極的・能動的に対応していくことが期待されるとしています。また、近年、社会問題となっている子どもの貧困は、子どもの読書体験にも影響を与えることが懸念され、困難を抱えた親子に対して読書の機会を提供していくことも重要な課題であるなどとしています。

³ アウトリーチ…病人や障がい者など、来館が困難で図書館サービスを受けられない人々に対し、図書館が施設等へ出かけてサービスの出前を行うこと。

イ 県の動向

栃木県においては、平成29年1月に県教育委員会により「子どもの読書活動に関する実態調査」が行われており、1か月に本を読まない生徒の割合（不読率）が、高校生で39.9%となっています。その理由として、「携帯電話やスマートフォンでのやりとりに時間を使う」という回答が最多となっており、子どもの年齢と不読率の上昇の関係性について注視しています。さらに県はこれらへの対策として、子どもの読書活動推進担当者や読書ボランティアの活動の活発化の促進、読書コンシェルジュ⁴の活動による高校生の読書活動の推進などに取り組んでいます。

（参考）1か月の読書量（栃木県教育委員会：子どもの読書活動に関する実態調査）

	0冊	1冊	2冊	3冊	4冊	5冊	6冊	7冊	8冊	9冊	10冊以上
小学生	4.1%	5.2%	9.5%	10.6%	10.1%	11.9%	6.3%	7.4%	5.9%	6.8%	22.0%
中学生	19.8%	24.4%	17.3%	12.8%	7.0%	6.8%	1.4%	1.9%	2.1%	1.0%	5.5%
高校生	39.9%	27.2%	12.9%	9.9%	3.0%	3.5%	1.2%	0.5%	0.8%	0.3%	1.0%

（参考）1か月の不読者率（0冊回答）

（全国学校図書館評議会，毎日新聞：第63回学校読書調査報告）

学年	小学生	中学生	高校生
不読者率	5.6%	15.0%	50.4%

⁴ 読書コンシェルジュ…県内の高校生世代の読書活動を推進するリーダーのこと。県が平成26年度から始めた高校生読書活動推進事業の取り組みの一つ。

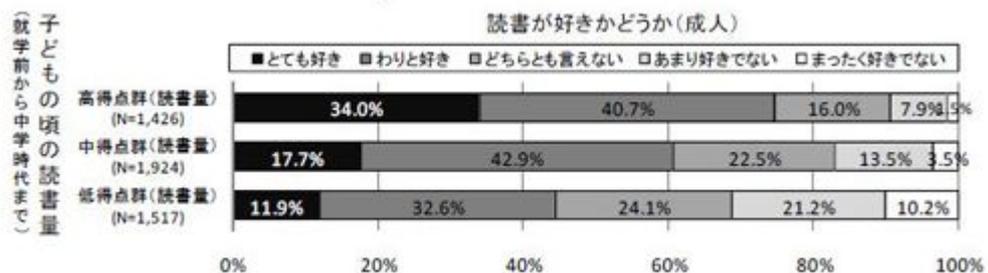
ウ その他の動向

独立行政法人国立青少年教育振興機構が行った平成25年「子どもの読書活動の実態とその影響・効果に関する調査研究」において、成人のうち、子どもの頃の読書量が多いほど読書好きである割合が高く、1か月に読む本の冊数や1日の読書量も多い、また、同じく成人のうち、子どもの頃の読書活動が豊富であるほど、読み聞かせ等読書を通した子どもとの関わりの機会が多いという結果が出ています。

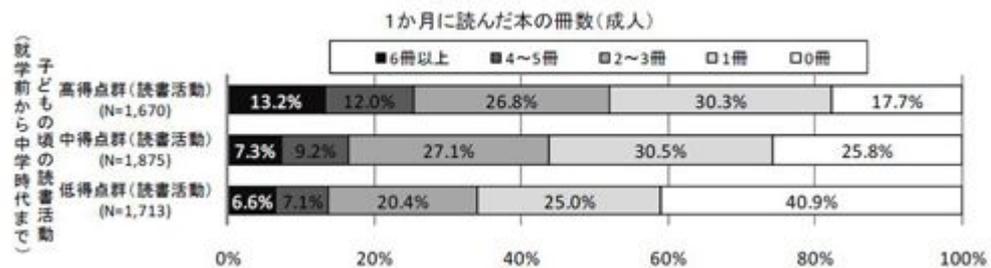
(参考)

平成25年「子どもの読書活動の実態とその影響・効果に関する調査研究」

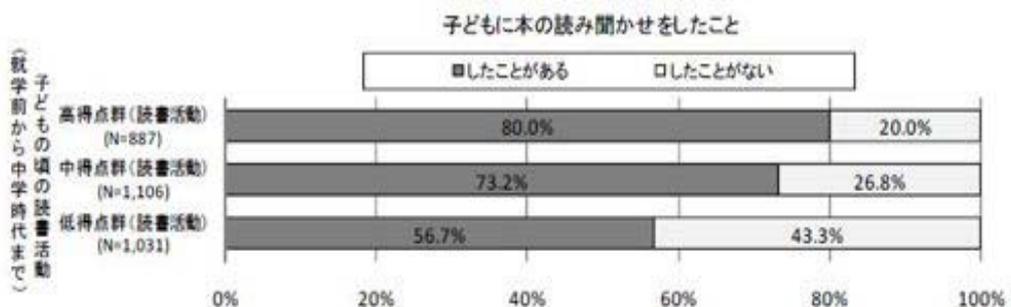
①子どもの頃（就学前から中学時代まで）の読書量と読書が好きかどうかとの関係



②子どもの頃（就学前から中学時代まで）の読書活動と1か月に読んだ本の冊数との関係



③子どもの頃（就学前から中学時代まで）の読書活動と子どもに本の読み聞かせをしたこととの関係



2 これまでの取組の成果と課題

第1次宇都宮市読書活動推進計画

平成25年6月に「第1次計画」を策定し、本市の全市民の読書活動を総合的に推進するため、計画的、効果的なサービスの実施等を図ってきました。

基本目標の進捗について

《基本目標1》多様な図書館サービスを利用するなど、あらゆる市民が読書活動に親しんでいます。

「基本指標」の達成率

	H23年度		H28年度 (達成率)	H29年度 目標値
基本指標① 図書館資料の 貸出冊数	4,566,016点	➡	4,222,216点 (84.4%)	5,000,000点
基本指標② 図書館の登録率	33.1%		32.2% (93%)	34.6%

「宇都宮市立図書館利用統計」より

重点事業である「読書推進ガイドブック⁵の作成・配布」や「センター図書室等の地域性や利用者層に合ったサービスの提供」は目標値を大きく超える実績となっており、多様なサービスの推進や市民の意識啓発に取り組んでいます。一方、基本指標①の図書館資料の貸出冊数は低下、基本指標②の図書館の登録率はほぼ横ばいの状況であることから、今後、図書館活動のPRを一層強化し、図書館の利用促進、登録促進を図る必要があります。

⁵ 読書推進ガイドブック…読書に関心が少なく、図書館を利用したことがない市民に、読書の楽しさに触れるきっかけを作ることを目的に作成した冊子。タイトルは「HON-miya」

《基本目標2》図書館、地域、学校連携のもと、宮っ子⁶が読書活動や学習活動に励んでいます。

「基本指標」の達成率

	H23年度		H28年度 (達成率)	H29年度 目標値
基本指標③ 高校生の 1か月の読書量	1.4冊	➡	1.47冊 (73.5%)	2冊
基本指標④ 子どもの読書に 関わるボランティアの活動人数	1,236人		1,204人 (75.2%)	1,600人

「栃木県教育委員会調査」、「宇都宮市学校教育課調査」より

重点事業である「高校生ボランティアによる中・高校生対象サービスへの参画」等により、高校生への読書活動の推進に取り組んでいますが、基本指標③の高校生の1か月の読書量は上昇していますが目標値の達成に至っていない状況です。「読み聞かせボランティア育成事業の強化」は目標値を下回っており、基本指標④の子どもの読書に関わるボランティアの活動人数は低下している状況で、目標値の達成には至っていません。今後は図書館・地域・学校が連携した、子どもたちが読書活動に興味関心を抱く取組の推進強化が必要です。



↑小中学校へ送り出される学校巡回図書

⁶ 宮っ子…本市の読書活動推進において、市内の0～18歳の子どもの総称

《基本目標3》 個人や団体、地域がそれぞれの課題を解決するために、図書館サービスを利用しています。

「基本指標」の達成率

	H23年度		H28年度 (達成率)	H29年度 目標値
基本指標⑤ レファレンスに対する 利用者満足度	52.6%	➡	60.3% (96.3%)	62.6%

「宇都宮市立図書館利用者アンケート」より

「地域資料・情報の収集と提供の充実」(中央図書館)、「科学・技術・ビジネス情報提供サービスの充実」(東図書館)、「子育て・家庭生活支援情報の充実」(南図書館)等の各図書館の特色あるサービスにより、基本指標⑤のレファレンスに対する利用者満足度は上昇していますが、目標値の達成には至っていない状況です。この背景としては、図書館のレファレンスサービス⁷が十分に認知されていないと考えられることから、今後も引き続きレファレンスサービスの充実、PRの強化が必要です。

《基本目標4》 市民が高度情報化に対応した資料や設備を利用し、ニーズに応じたデジタル情報を活用しています。

「基本指標」の達成率

	H23年度		H28年度 (達成率)	H29年度 目標値
基本指標⑥ 図書館の インターネット 端末の利用件数	21,305件	➡	38,041件 (126.8%)	30,000件

「宇都宮市立図書館利用統計」より

重点事業である「図書館情報システムの更新」については更新作業の日程に沿って作業を進めており、また、平成28年度には、市内5図書館全てで持込みパソコン等によるインターネット接続環境が整ったことから、基本指標⑥の図書館のインターネット端末の利用件数は目標値を大きく超える件数となっています。

⁷ レファレンスサービス…司書による調査相談サービス。利用者の求めに応じて、資料や情報を提供することにより、利用者の調べ物を援助する。

《基本目標5》図書館の適切な環境整備と運営により、市民が快適に図書館を利用しています。

「基本指標」の達成率

	H23年度		H28年度 (達成率)	H29年度 目標値
基本指標⑦ 図書館の読書環境に関する利用者満足度	82.0%	⇒	79.2% (95.2%)	85.0%

「宇都宮市立図書館利用者アンケート」より

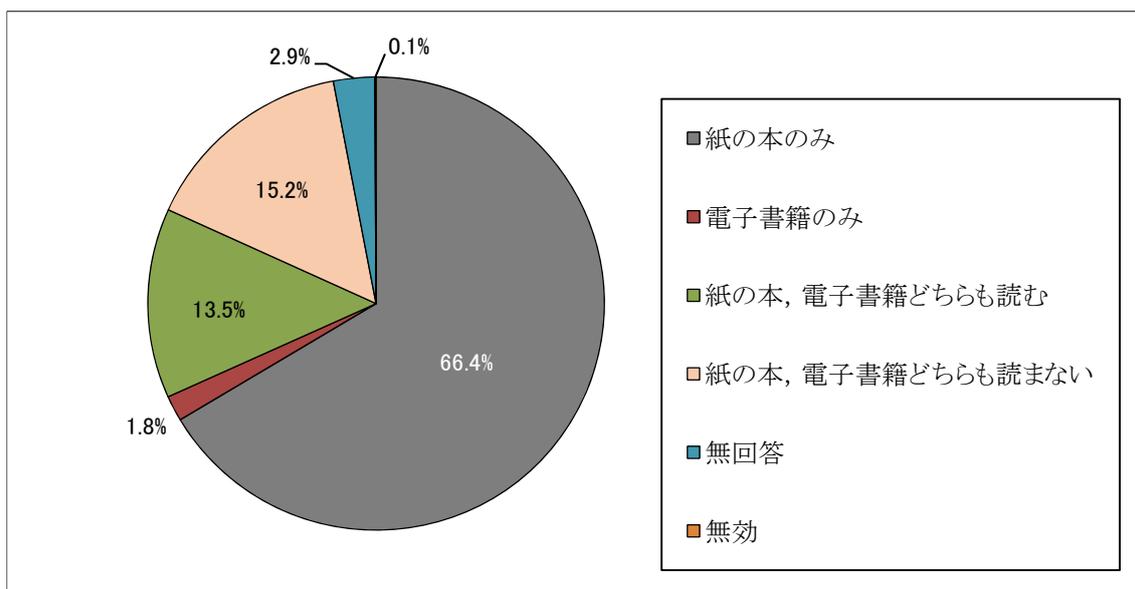
図書館施設の改修等については、緊急性の高い部分から修繕を行っていますが、4図書館（中央・東・上河内・河内）の経年劣化による空調やトイレ等の改善を求める意見が多く寄せられており、基本指標⑦の図書館の読書環境に関する利用者満足度はやや低下しています。今後、各館の状況に応じた計画的な改修が行えるよう、努めていく必要があります。



3 市民の読書活動の状況

(1) 市民の読書活動について

最近1年間の市民の読書媒体と読書活動をしない市民の割合（市民意識調査⁸）
読書媒体としては、紙の本を読む人が多く、全体の約6割が紙の本のみを読んでいます。

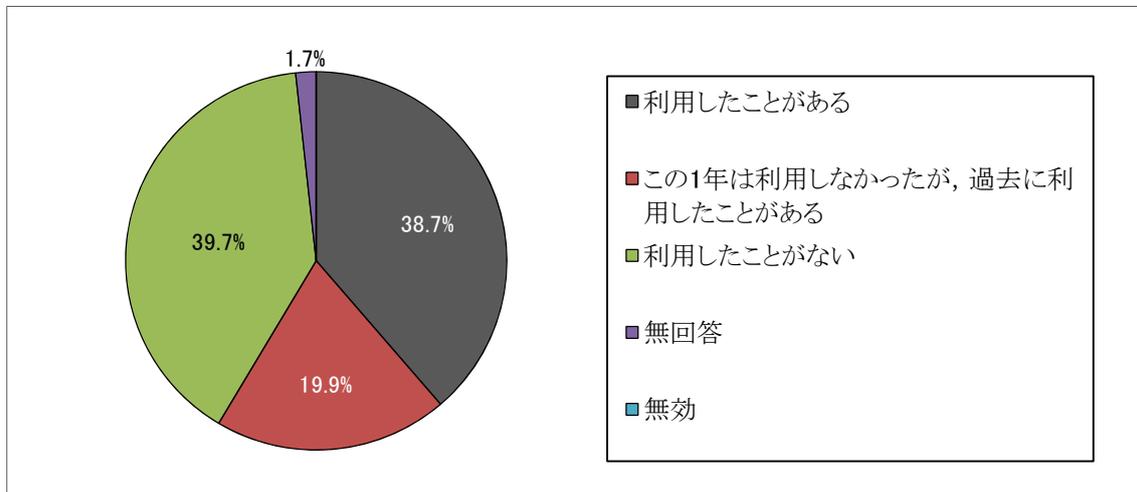


⁸ H28年11月「宇都宮市社会教育・生涯学習に関する市民意識調査」（生涯学習課）

(2) 図書館について

ア 最近1年間の図書館の利用（市民意識調査）

利用したことがある人と利用したことがない人が、ともに約4割近くとなっています。



(参考) 図書館を利用したことがない主な理由

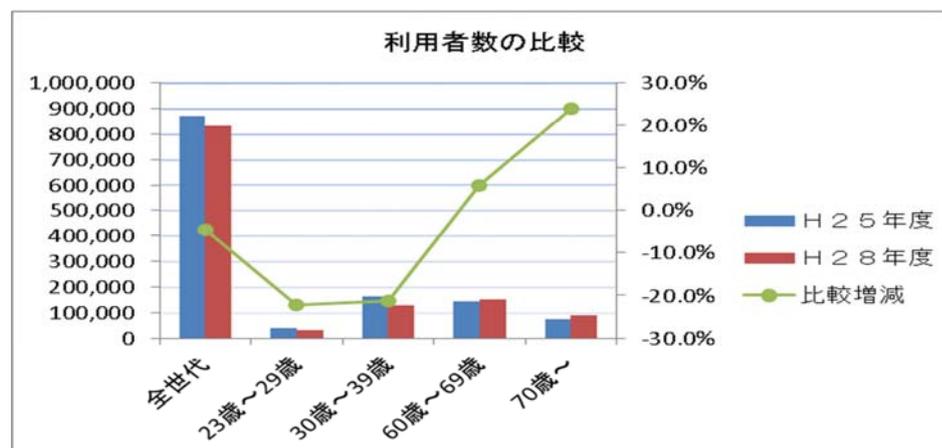
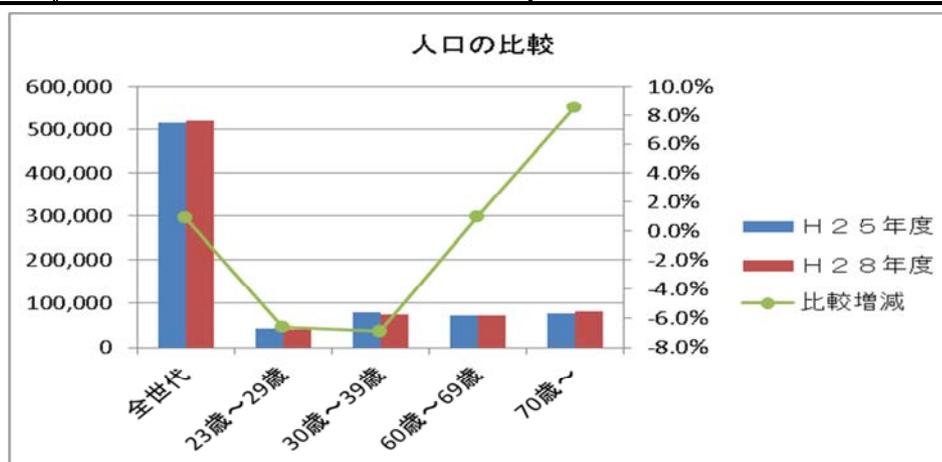
- ・本や雑誌は自分で購入する。(41.7%)
- ・図書館や図書室に行く必要性を感じない、興味がない。(32.9%)
- ・時間がない。(31.7%)
- ・図書館や図書室が近くにない。(15.2%)



イ 図書館「年齢別利用人数統計」に基づく各世代の人口増減に対する利用者増減の割合（平成25年度と平成28年度の比較）（図書館統計）

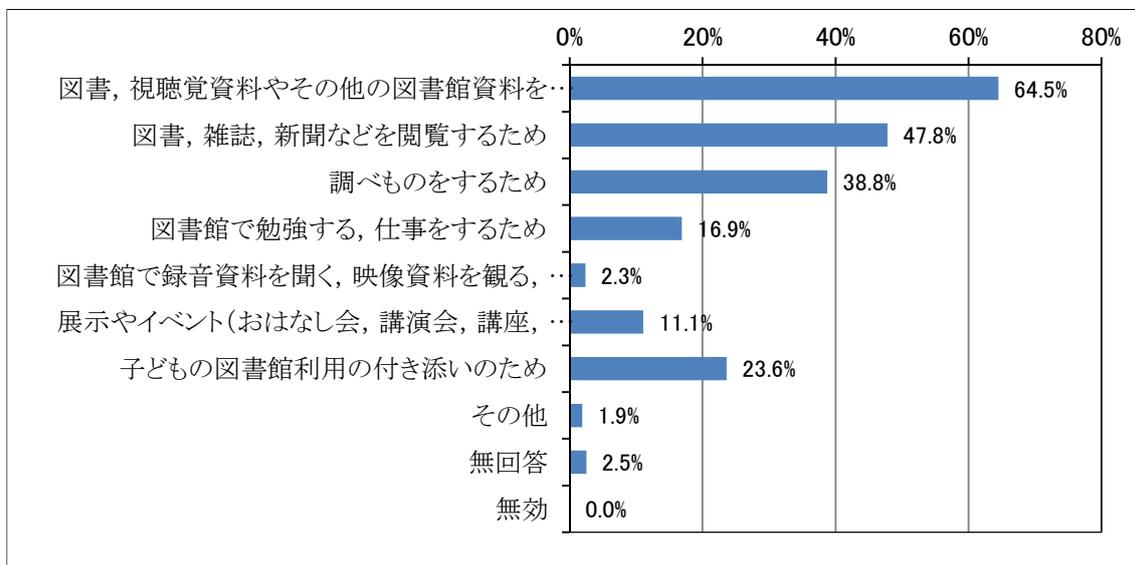
図書館の貸出冊数をみると、それまでの増加傾向から平成24年度をピークに減少に転じています。とくに減少幅が著しいのが20代から30代の利用で、平成25年度から平成28年度にかけておよそ2割減となっています。一方、60歳以上のシニア世代の利用は大幅に増加しています。

世代	人口	比較増減	利用者数	比較増減
全世代	516,546人 → 521,082人	↑ 0.9% 増	871,760人 → 831,225人	↓ 4.6% 減
23歳～29歳	42,264人 → 39,445人	↓ 6.7% 減	39,787人 → 30,934人	↓ 22.3% 減
30歳～39歳	78,661人 → 73,221人	↓ 6.9% 減	162,092人 → 127,671人	↓ 21.2% 減
60歳～69歳	71,106人 → 71,764人	↑ 1.0% 増	142,539人 → 150,770人	↑ 5.8% 増
70歳～	75,776人 → 82,259人	↑ 8.6% 増	72,512人 → 89,981人	↑ 24.1% 増



ウ 図書館の利用目的（市民意識調査）

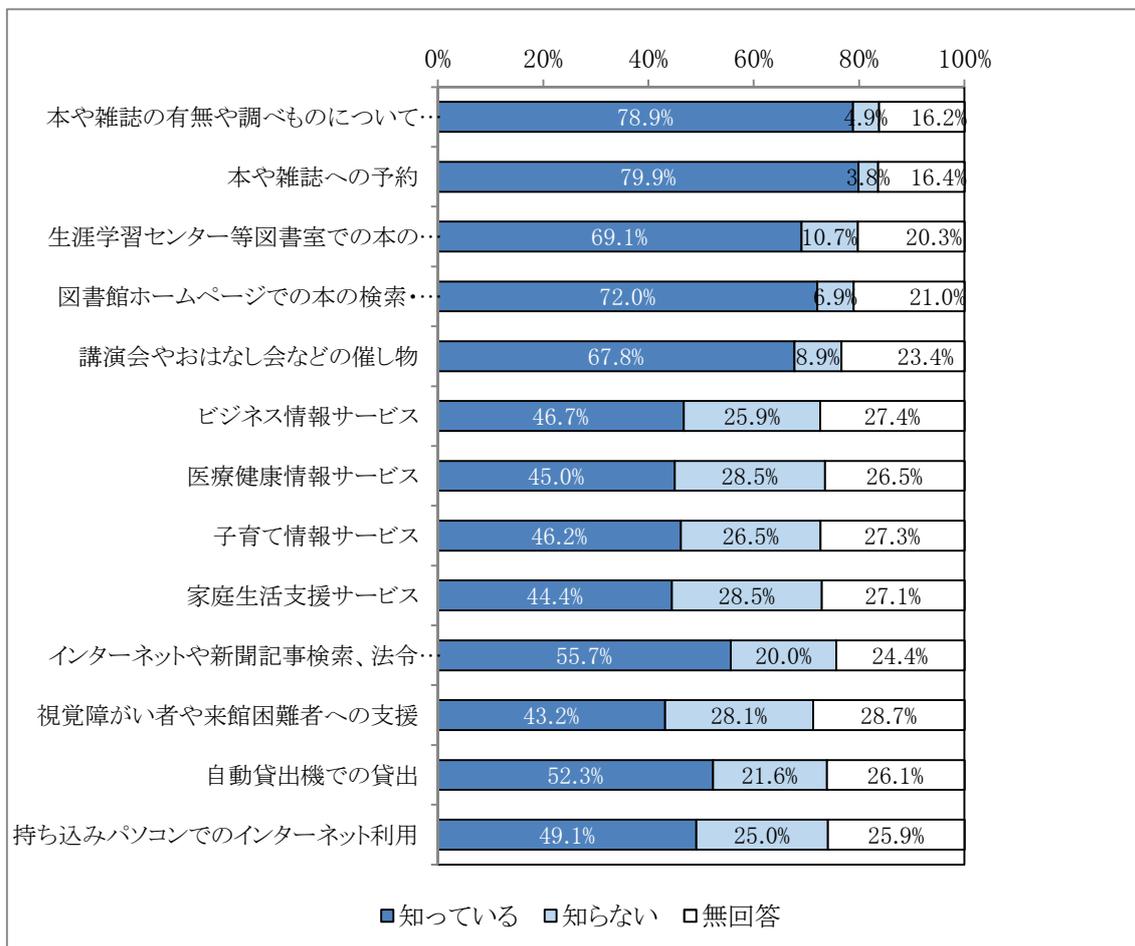
資料の貸出・返却について多いのが資料の閲覧，調べ物，子どもとの来館と続きます。



↑ 読み聞かせ講座

エ 図書館サービスの認知度（図書館「利用者アンケート⁹」）

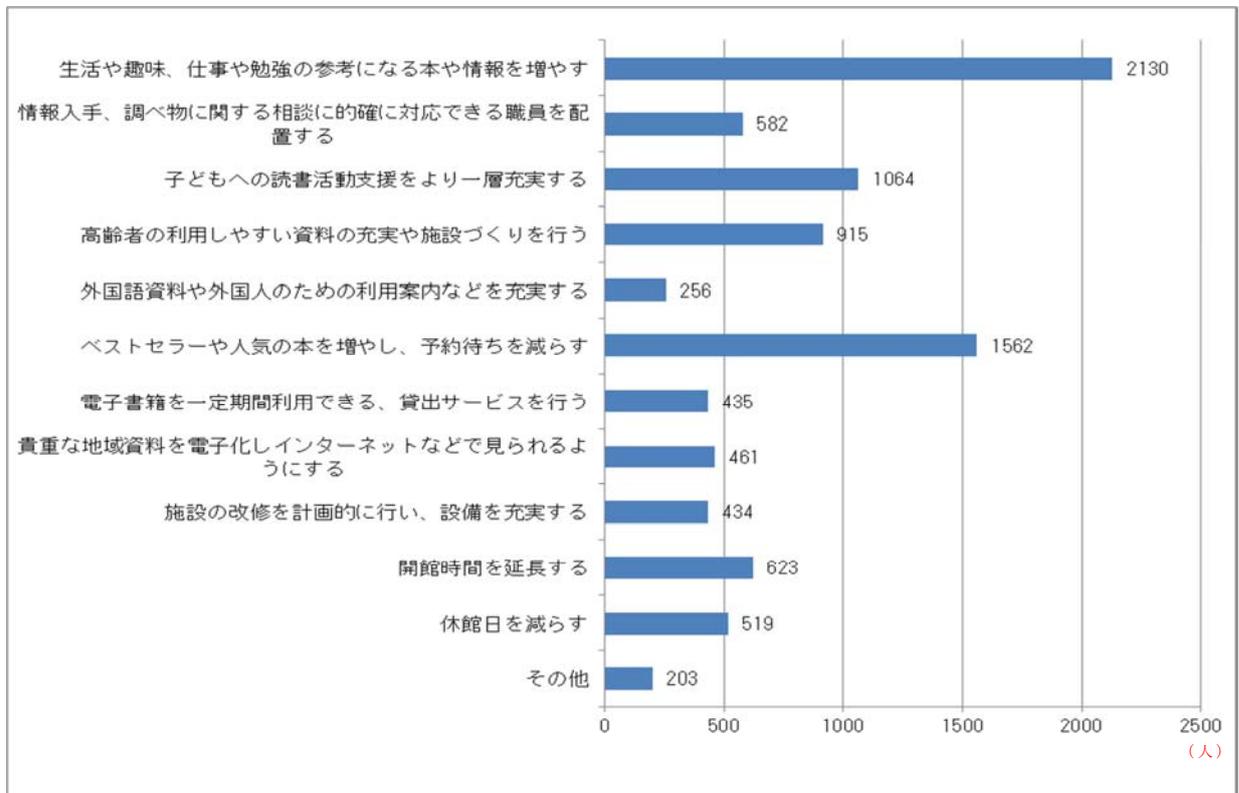
図書館サービスの認知度としては「本や雑誌への予約」について「本や雑誌の有無や調べものについての相談」が高い数値を示しています。



⁹ 平成 29 年 10 月「宇都宮市立図書館利用者アンケート」（図書館）

オ 図書館が目指す方向（図書館「利用者アンケート」）

参考になる書籍や情報を増やすに続き，人気の本の所蔵を増やす，子どもへの読書活動支援のより一層の充実についての要望が多くなっています。

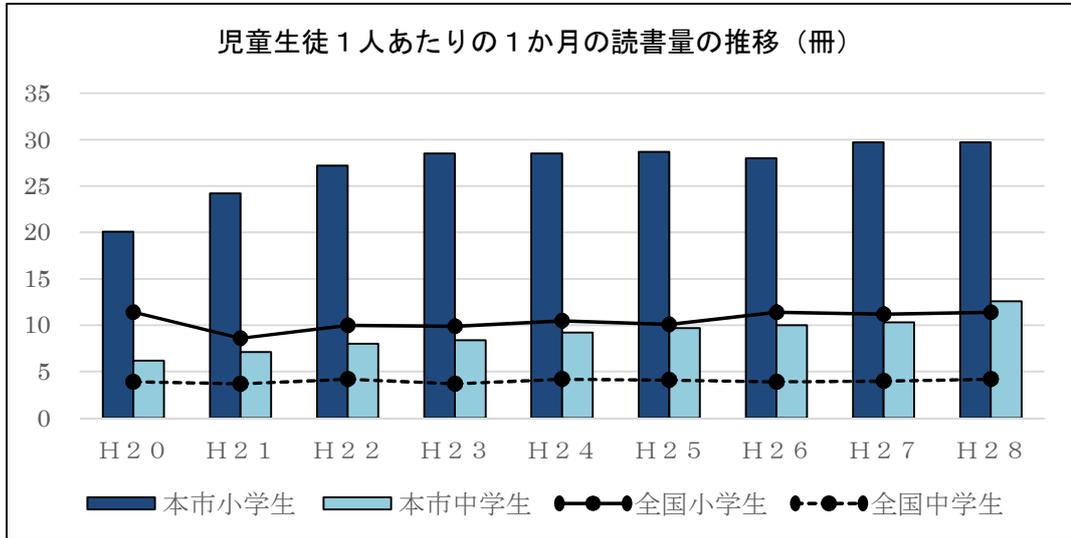


↑ 司書体験

(3) 子どもの読書活動について

ア 本市と全国の児童生徒の読書量の推移（学校教育課「読書アンケート調査¹⁰」）

本市の小学生は全国平均の約2～3倍、本市の中学生は全国平均の約2倍の読書量となっています。

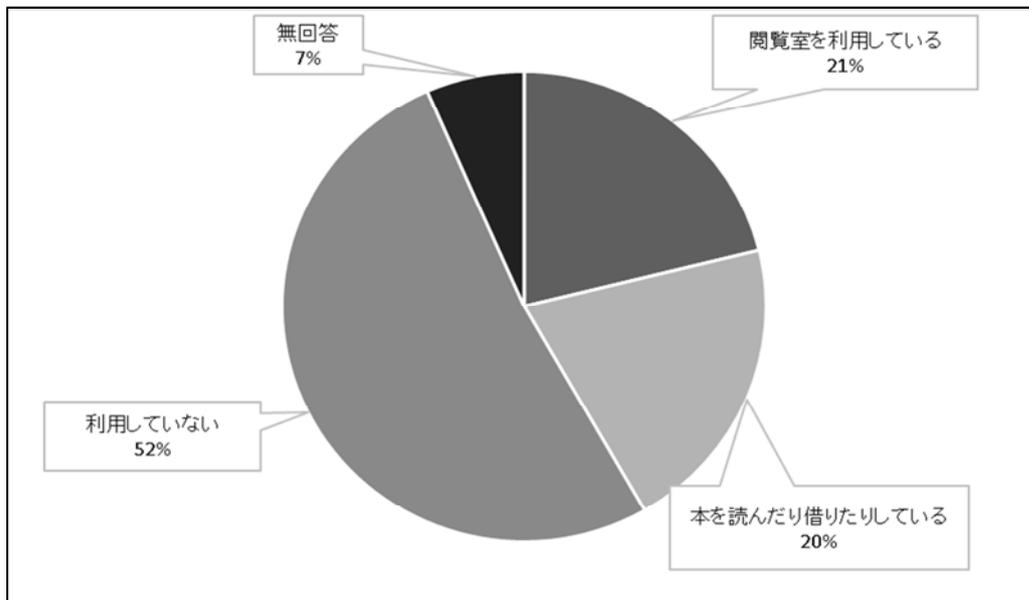


¹⁰ 平成28年11月「読書アンケート調査」（学校教育課）

イ 宇都宮市読書推進ガイドブック「HON-miya」に関するアンケート¹¹結果

市立図書館の利用について（4,881人回答）

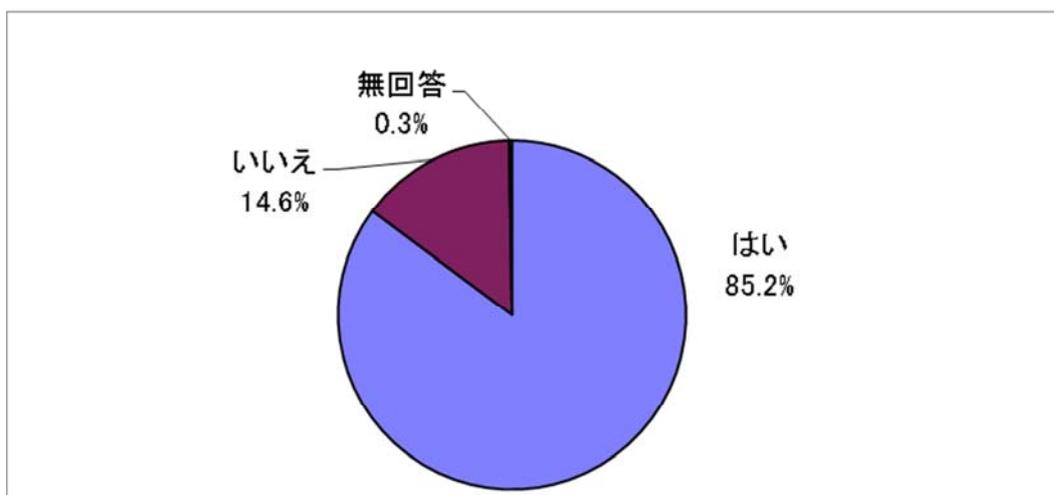
閲覧室の利用も含めると，高校1年生のおよそ4割が宇都宮市立図書館を利用しています。



ウ 図書館「親子読書アンケート」¹²結果

（ア）子どもに読み聞かせをしていますか。

85%を超える保護者が読み聞かせをおこなっていると回答しており，読み聞かせへの関心の高さがうかがえます。

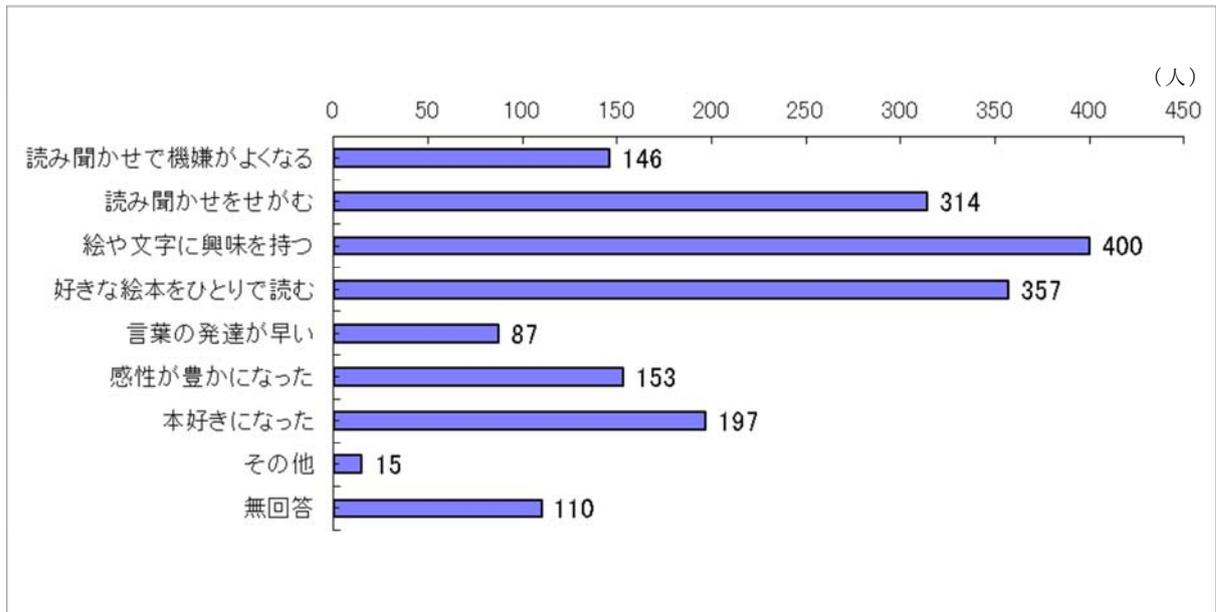


¹¹ 平成28年9月「宇都宮読書推進ガイドブック「HON-miya」に関するアンケート」（図書館）

¹² 平成29年9月「親子読書アンケート」（図書館）

(イ) 読み聞かせによって子どもに見られる変化（3つまで）

「絵や文字に興味を持つ」が最多で400人、次に「好きな絵本をひとりで読む」357人、「読み聞かせをせがむ」314人と続きます。読み聞かせが絵本を楽しむきっかけになっています。



↑子どもへの読み聞かせ

4 今後の読書活動推進の課題

(1) 多様なニーズを捉えた読書活動の推進が必要

個人の関心やライフスタイルが多様化・複雑化する中、市民一人ひとりが読書活動に親しむために、様々な状況やニーズを捉えたサービスを展開するなど読書環境を整えることが必要です。

- ・本を読まないあるいは読書活動の拠点である図書館を利用したことがない市民への働きかけ
- ・読書意欲の高い市民に対し、多様化するニーズを捉えた読書環境の整備
- ・高齢者や障がい者、困難を抱える市民に対する読書機会の提供
- ・ICTの進展に伴い、電子図書を活用等についての検討
- ・施設設備に関する計画的な改修

(2) すべての子どもが読書に親しめる機会の提供が必要

本市の小中学生の読書量は順調に推移しています。子どもが継続的に読書に親しむため、家庭への働きかけや学校図書室の充実、子どもの読書に関わる人材の確保などによる、子どもへの読書機会の提供が必要です。

- ・乳幼児期の読書経験がその後の読書活動に影響を及ぼすことから、本に親しむ機会の提供
- ・図書館資源等を活用した読書機会の格差解消に資する取組の検討
- ・子どもの読書活動に携わるボランティアの確保、育成
- ・小学校での英語の教科化に伴う、子どもが英語に親しめる環境の充実

(3) 課題解決支援の更なる強化が必要

著しく変化する社会環境に対応するため、講座の開催などによる学びの場の提供やデジタル情報環境の整備、課題を解決するためのレファレンスサービスの充実・PRが必要です。

- ・市民ニーズや今日的課題に対応した講座の開設や地域課題解決への貢献
- ・地域資料等の貴重な資料のデジタル保存や継承等ニーズに応じたデジタル情報の環境整備と活用促進
- ・様々な課題解決支援に対応するため、職員のスキルアップとレファレンスサービスのPR

(4) 本を通して人と人がつながるしくみづくりが必要

少子化・超高齢化により，地域コミュニティの衰退や人のつながりが希薄化する中，本と人をつなぐだけでなく，図書館資源を活かして人と人がつながる交流の場をコーディネートする役割が図書館に求められていることから，交流促進の仕かけづくりや読書活動の推進に資する人材の育成などが必要です。

- ・ 本を通し人と人が交流する場の提供
- ・ 読書活動を支援する人材の育成



↑南としかん子どもフェスティバル



Ⅲ 基本的な考え方

1 基本理念

読書活動が、市民の多様なニーズや課題解決に寄与し、市民一人ひとりが豊かな人生を送ることができるよう、「今後の読書活動推進に向けた課題」として抽出した課題の要素を整理統合し、市民の読書活動推進を図るうえでの目指す姿を「基本理念」としています。

市民が生涯にわたり読書活動に親しむため、社会の変化に対応した多様な読書機会を提供するとともに、人と人がつながる読書活動を推進します。

- 市民がそれぞれの世代やライフスタイルに応じ、読書活動に親しめる環境づくりを進めます。

すべての市民が、世代やその他の状況に関わらずそれぞれに応じた読書活動に親しめるよう、本と出会えるきっかけづくりや、様々なニーズを捉えた多様な読書機会を提供します。

- すべての宮っ子が読書を楽しめる環境づくりを進めます。

生涯にわたり読書活動を継続するためには、子どものときからの読書の経験が重要となっています。読書をする機会が少ない子どもへのサービスを提供するとともに、家庭・学校・図書館での読書活動の充実を推進します。

- 市民や地域が抱える課題の解決を支援するため、読書活動の拠点である図書館の役割を強化します。

市民が行う様々な課題解決や学習活動の支援をするため、図書館資源の充実と情報発信を推進します。

- 本や読書を通して人と人がつながるしくみづくりを進めます。

読書を、個人が体験するものだけではなく、人と交流するツールとして活用し、本をきっかけにした人と人とがつながる機会を創出していきます。

2 基本目標

基本理念の実現に向け、4つの課題を解決した状態を「基本目標」として定めるとともに、「基本目標」ごとにその達成状況を数値で示すものとして、「基本指標」を設定します。

基本目標Ⅰ 市民一人ひとりが個に応じた多様な読書活動に親しんでいます。

学びによる個人の資質向上のためには、主体的な読書活動が重要であることから、市民一人ひとりが読書活動に親しんでいる状態を目標とします。

基本指標ⅰ ・最近1年間で読書（紙の本・電子書籍）をしている人の割合
平成28年度 平成34（2022）年度
81.9% ⇒ 83%

（市民意識調査）

基本目標Ⅱ すべての宮っ子が読書活動を楽しんでいます。

子どもは読書を通して、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、人生をより深く生きる力を身につけていくことが重要であることから、すべての宮っ子が読書を楽しんでいる状態を目標とします。

基本指標ⅱ ・児童書の貸出冊数
平成28年度 平成34（2022）年度
1,560,000冊 ⇒ 1,565,000冊
（図書館利用統計）

基本指標ⅲ ・高校生の1か月の読書量
平成28年度 平成34（2022）年度
1.47冊 ⇒ 1.6冊
（子どもの読書活動に関する実態調査）

基本目標Ⅲ 個人の問題や社会が抱える課題を解決するために図書館資源を活用しています。

著しく変化する社会において、個人は、日常生活で直面するさまざまな問題について、自己判断・自己責任によって解決を図る必要があります。また、地域社会が住民の力を結集して課題を解決することが重要であることから、市民や地域がそれぞれの問題や課題を解決するために、図書館資源を活用している状態を目標とします。

基本指標iv ・レファレンスサービスにおける利用者満足度

平成28年度

60.3%

⇒

平成34(2022)年度

65%

(図書館利用者アンケート)

基本目標Ⅳ 読書活動を介して人と人が交流しています。

市民の読書活動の拠点である図書館は、本と人をつなぐだけでなく、図書館資源や事業を活かして人と人が交流できる場であり、コミュニティの維持・活性化へのきっかけづくりとなる役割も期待されることから、読書活動を介して人と人が交流している状態を目標とします。

基本指標v ・読書推進事業の参加人数

平成28年度

24,000人

⇒

平成34(2022)年度

25,000人

(図書館概要)

3 計画の体系

基本理念

市民が生涯にわたり読書活動に親しむため、社会の変化に対応した多様な読書機会を提供するとともに、人と人がつながる読書活動を推進します。

基本目標Ⅰ

市民一人ひとりが個に応じた多様な読書活動に親しんでいます

- 施策1 さまざまな市民に向けた読書活動の推進
- 施策2 読書機会の少ない人々に向けたサービスの充実
- 施策3 ICTを活用したサービスの充実
- 施策4 読書環境の整備

基本目標Ⅱ

すべての宮っ子が読書活動を楽しんでいます

- 施策5 子どもの読書習慣を育む機会の充実
- 施策6 乳幼児期の子どもへの読書活動の推進
- 施策7 小中学校との連携・支援の充実
- 施策8 中高生が参加できる事業の推進

基本目標Ⅲ

個人の問題や社会が抱える課題を解決するために図書館資源を活用しています

- 施策9 地域情報の収集・提供
- 施策10 各図書館の特色を活かした事業の実施
- 施策11 課題解決に役立つ資料や情報の提供

基本目標Ⅳ

読書活動を介して人と人が交流しています

- 施策12 人と人をつなぐ場や機会の提供の充実
- 施策13 市民との協働による読書活動の推進



IV 施策の展開

基本理念や基本目標の実現に向け、今後5年間で取り組む施策・事業と、重点事業の目標値を設定します。

なお、計画に位置付ける事業のうち、各施策を代表する基幹的な事業や、基本目標の達成に向け、特に効果が高いと考えられる事業を「重点事業」として位置付けます。

また、「重点事業」には、原則として目標値を設定し、進行管理を行います。

基本目標Ⅰ 市民一人ひとりが個に応じた多様な読書活動に親しんでいます。

施策1 さまざまな市民に向けた読書活動の推進

市民一人ひとりが読書活動に親しむためには、多様化するニーズを捉えた読書環境の提供が重要であることから、さまざまなサービスを展開し、市民の読書活動の推進に取り組みます。

事業 番号	事業 区分	事業・取組等	担当課
		事業概要	
1	新規	「よるとしよ」事業の実施	東図書館
		日ごろ読書や図書館を利用する機会が少ない20代から30代の読書活動を推進するため、閉館後の夜の図書館を活用し、若い世代が参加しやすい事業を実施します。	
2	新規	転入者向け図書館PR事業の実施	全図書館
		本市への転入者へ向けて市民の読書活動の拠点である図書館のPRを図るため、図書館の案内や利用方法のほか、宇都宮での暮らしに役立つ情報を探すための「パスファインダー ¹³ 」を作成し、配布・公開します。	
3	継続	読書活動の啓発事業の実施	全図書館
		読書活動の啓発を図るため、「宮っこフェスタ」など全市的なイベントに参加し、読書に関する情報を市民へ発信します。特に図書館に来館したことのない市民の利用を促進するため、図書館のPR事業を展開するほか、図書館等に設置してあるOPAC（利用者用端末）を読書活動の啓発に関する掲示板としても活用することで、効果的な読書活動の広報を行います。	

¹³ パスファインダー…利用者の調べ物を支援するため、特定のテーマについて図書・雑誌・辞書類・インターネットサイトや関連施設などの役立つ情報を紹介したパンフレットのこと。

4	継続	センター図書室 ¹⁴ 等の地域性や利用者層に合ったサービスの提供	中央・東・南図書館・生涯学習センター
		市民の多様化・複雑化するニーズに対応するため、地域性や利用者層を考慮したきめ細やかなサービスを提供します。また、各センター等の開催事業のテーマに合わせた図書室の展示等を行い、センター等と連携した相乗効果による利用促進を図ります。	



↑フェスタmy宇都宮に出展

¹⁴ センター図書室…市内15箇所の生涯学習センターと田原コミュニティプラザ、バンパ出張所内に設置された図書室。図書館とのオンラインによる貸出・返却・予約等のサービスを実施。

施策2 読書機会の少ない人々に向けたサービスの充実

市民一人ひとりが読書活動に親しむためには、読書機会の少ない人々への働きかけが重要であることから、市民が利用しやすい場所に出向き、資料の団体貸出や情報提供等、図書館資源を活用した読書機会の充実に取り組みます。

事業 番号	事業 区分	事業・取組等	担当課
		事業概要	
5	新規 重点	アウトリーチサービスの推進	全図書館
		読書機会の少ない市民の読書活動推進のため、来館が困難な高齢者や、読書機会の少ない子ども等が利用しやすい場所に出向き、資料の貸出、図書に関する情報提供、おはなし会等を実施します。	
6	継続	障がい者向けサービスの充実	中央図書館 南図書館
		図書館への来館が困難な障がい等を持つ方へ読書機会を提供するため、障がい者向けサービスの充実を図ります。また、視覚障がい者の方向けの資料の提供を継続的に行うため、点字図書等の作成に関わる奉仕員への研修会を開催します。さらに、障がいを持つ子どものため、手話つきおはなし会や特別支援学校等への資料提供を実施します。	

重点事業の目標値

事業番号5 アウトリーチサービスの推進

指標名	平成28年度 (2016年度)	平成34年度 (2022年度)
実施回数	0回/年	15回/年



↑ 点字体験の様子

施策3 ICTを活用したサービスの充実

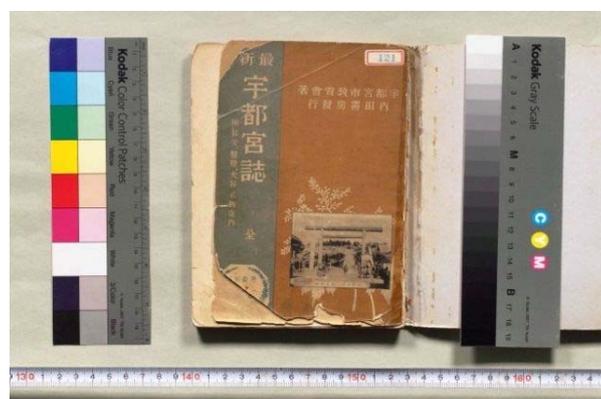
市民が多様な読書活動に親しむためには、情報通信技術（ICT）の進展に伴う資料の電子化等の技術活用への対応も重要であることから、デジタルアーカイブ事業の推進や電子図書の導入の検討など、ICTを活用したサービスの充実に取り組みます。

事業番号	事業区分	事業・取組等	担当課
		事業概要	
7	拡充 重点	ICT技術を活用した読書活動の推進	全図書館
		新たな読書の楽しみを創出し、市民の読書意欲を効果的に高めるため、自分のお気に入りの本や読んだ本の履歴が残る機能等ICT技術を活用した情報提供を実施します。また、普及が進んでいる電子図書の導入について検討を進めます。	
8	拡充	地域資料のデジタルアーカイブ化の推進と資料の公開	中央図書館 文化課
		地域の歴史を次世代に伝えるため、貴重な史料等をデジタル化し、保存していきます。また、利用機会を拡大するため、データベースとしてインターネットでの公開を進めていきます。	

重点事業の目標値

事業番号7 ICT技術を活用した読書活動の推進

指標名	平成28年度 (2016年度)	平成34年度 (2022年度)
図書館ホームページアクセス数	900,000件	1,000,000件



↑ 貴重な地域資料のデジタル化

施策4 読書環境の整備

市民が読書活動に親しむためには、安全・快適に市民の読書拠点である図書館を利用できることが必要であることから、施設・設備の老朽化に対応するため、計画的な修繕・改修に努めるほか、市民の読書意欲を高めるサービスの提供や、ホスピタリティの充実に取り組めます。

事業 番号	事業 区分	事業・取組等	担当課
		事業概要	
9	拡充	読書意欲を高めるサービスの提供	全図書館
		市民が個に応じた読書に親しむため、時機に合わせた情報・資料の提供、関係機関の事業等と連動した読書活動を推進する企画展示等を実施し、市民の多様化するニーズに応じたサービスを提供します。	
10	継続	図書館施設の改修・機能向上事業の推進	全図書館
		すべての市民が安全・快適に図書館を利用するため、計画的な改修に努め、施設・設備の機能向上を図ります。また、図書館における効果的・効率的な管理運営について、「行革プラン」の一環として継続的に検討していきます。	



↑ 関係機関と連携した企画展示

基本目標Ⅱ すべての宮っ子が読書活動を楽しんでいます。

施策5 子どもの読書習慣を育む機会の充実

すべての子どもが読書を楽しむためには、読書習慣を育む家庭や学校、読書をする機会が少ない子どもへの支援が必要であることから、子どもの読書活動を支援する人材の育成、それらの子どもが利用しやすい場所へ出向いて本や情報を提供する事業に取り組みます。

事業番号	事業区分	事業・取組等	担当課
		事業概要	
11	拡充 重点	「うちでもどこでも読み聞かせ」事業の実施	中央図書館 東図書館 南図書館
		家庭での読書習慣を育むため、保護者のグループや育児サークルを対象に、家庭での読み聞かせの方法や絵本の紹介などの出前講座を実施します。	
12	新規	アウトリーチサービスの推進【再掲】	全図書館
		—	
13	継続	「うつのみやこども ¹⁵ 賞」事業の実施	中央図書館
		子どもの読書活動を啓発するため、日本人の作者による新作児童文学作品を対象に、市内の小学5、6年生公募委員が、その年一番友だちに薦めたい本を選び、賞を授与する事業を実施します。	
14	継続	読書活動を支援するボランティアの育成・強化	全図書館 学校教育課
		子どもの読書習慣を育むためにはそれに関わる人材の育成が重要であることから、図書館や学校等で活動する読み聞かせボランティアの人材の確保と育成に努めます。また、要請に応じ、市民への出前講座を行います。	

重点事業の目標値

事業番号11 「うちでもどこでも読み聞かせ」事業の実施

指標名	平成28年度 (2016年度)	平成34年度 (2022年度)
事業実施回数	2回/年	10回/年

¹⁵ うつのみやこども賞…子ども同士が話し合いで児童文学を評価し受賞作品を選ぶこと。また、受賞作品を活用し広く子どもの読書活動を啓発することをめざす。昭和59年度から実施。子どもによる創作児童文学の評価という点で日本で唯一の事業。

施策6 乳幼児期の子どもへの読書活動の推進

子どもが継続的に読書に親しむためには、乳幼児期における読書体験がその後の読書活動に影響を及ぼすことから、家庭へのはたらきかけを行い読書の重要性を認識してもらうなど、乳幼児期の子どもへの読書活動の推進事業に取り組みます。

事業番号	事業区分	事業・取組等	担当課
		事業概要	
15	新規 重点	はじめてえほん事業の実施	中央図書館 東図書館 南図書館
		子どもが継続的に本に親しむきっかけづくりのため、乳幼児と保護者を対象として、生涯学習センター等でのおはなし会と読み聞かせの講座を実施します。	
16	継続	乳幼児やその保護者に対する読書活動支援の充実	全図書館 子ども家庭課 生涯学習課
		乳幼児とその保護者の読書習慣を育むため、図書館において本を通じてゆっくりと過ごせる時間「あかちゃんタイム ¹⁶ 」の実施や、親子で参加できる講座等を開催します。また、関係課と連携し集団検診時等にブックリストの配布を行います。	
17	継続	読書活動を支援するボランティアの育成・強化【再掲】	全図書館 学校教育課
		—	

重点事業の目標値

事業番号15 はじめてえほん事業の実施

指標名	平成28年度 (2016年度)	平成34年度 (2022年度)
講座開催数	0回/年	16回/年

¹⁶ あかちゃんタイム…乳幼児を連れた保護者が、気兼ねなくゆっくりと図書館を利用していただけようにするための時間帯を設ける事業。平成26年5月から実施。

施策7 小中学校との連携・支援の充実

子どもが読書に親しむためには、小中学校における読書活動が重要であることから、学校図書館での読書活動の充実に向けた事業のほか、学校図書館や学校図書館司書業務嘱託員等を支援する事業を実施するなど、小中学校との連携・支援の充実に取り組みます。

事業 番号	事業 区分	事業・取組等	担当課
		事業概要	
18	拡充 重点	授業に役立つ資料・情報提供の充実	南図書館 学校教育課
		南図書館は小中学生への授業や読書活動を支援するため、学校の要望に応じた資料を図書館司書が選定して提供します。また、学校図書館の選書や教科の参考になる図書を選定し、 <u>学校巡回図書サービス</u> ¹⁷ を実施します。さらに小学校の英語の教科化等に対応した新たな <u>学校パック</u> ¹⁸ の作成や、授業に即したパスファインダーの作成などを行います。	
19	継続	学校図書館司書業務嘱託員¹⁹等の育成	学校教育課 南図書館
		学校の教育活動全体を通じ、学校図書館を計画的に運営しその機能の充実を図るため、学校内や地域学校園内が連携して研修会等を開催し、司書教諭及び司書業務嘱託員の育成と能力向上を図ります。	
20	継続	学校図書館における読書活動の充実	学校教育課
		児童生徒の主体的、意欲的な読書活動を充実させるため、「第2次宇都宮市学校教育推進計画」に基づき、全校一斉読書や読み聞かせ、 <u>ブックトーク</u> ²⁰ 等を実施します。また、学校図書館司書業務嘱託員、地域学校園司書業務嘱託員による図書を利用した授業支援を実施します。	

17 学校巡回図書サービス…小中学生の学年や教科内容を考慮して選定した1箱40冊のセットを用意し、各小中学校に1箱ずつ送り、毎週巡回することで多くの図書に触れてもらうためのサービス。平成18年度より開始。

18 学校パック…学校支援サービスのひとつ。学校希望図書のうち、よく利用されるテーマの図書40冊程度を1箱にまとめ、箱単位で貸出するサービス。平成20年2月より開始。

19 学校図書館司書業務嘱託…宇都宮市内の小中学校図書室に配置された司書資格を持つ非常勤嘱託員。

20 ブックトーク…あるテーマについてあらかじめ選んでおいた数冊の本を紹介すること。子どもの読書への興味を引き出すための手法のひとつ。

重点事業の目標値

事業番号 18 授業に役立つ資料・情報提供の充実

指標名	平成28年度 (2016年度)	平成34年度 (2022年度)
学校希望図書利用件数	1,600件	1,800件

施策8 中高生が参加できる事業の推進

すべての子どもが読書に親しむためには、不読率が高まる高校生等の世代への働きかけが必要であることから、日頃、読書に関心がない中高生が参加できる事業の推進に取り組みます。

事業 番号	事業 区分	事業・取組等	担当課
		事業概要	
21	新規	中学生による読書推進事業	全図書館
		読書推進と図書館利用啓発のため、中学生を中心とした世代向けのブックリストの発行等、図書館ホームページを活用し、同世代からのおすすめ本情報を発信するなど、図書館利用のきっかけづくりに取り組みます。	
22	拡充 重点	高校生の本や読書に関する情報交換・発信事業の推進	全図書館
		高校生に向けて、将来へと繋がる柔軟な考え方や生き方を培う読書の重要性を発信するため、「MIYATEEN ²¹ 」を発行します。また、高校生の読書活動を活発化するため、高校生自身が運営に関わる ビブリオバトル²² 等の事業を実施します。さらに県と連携し高校生の読書活動の推進に取り組みます。	

重点事業の目標値

事業番号 22 高校生の本や読書に関する情報交換・発信事業の推進

指標名	平成28年度 (2016年度)	平成34年度 (2022年度)
高校生対象の情報発信回数	1回/年	30回/年

²¹ MIYATEEN…高校生の読書の傾向を把握し、図書館を通して広く高校生に読書の情報を発信するための事業のひとつ。高校生が編集する読書に関する情報誌。

²² ビブリオバトル（書評合戦）…出演者（バトル）がおすすめ本について5分間のプレゼンを行い、すべての出演者のプレゼンを聞いた聴衆がもっとも読みたくなった本を多数決で決める書評バトル。

基本目標Ⅲ 個人の問題や社会が抱える課題を解決するために図書館資源を活用しています。

施策9 地域情報の収集・提供

地域が課題解決などを図るためには、その地域の状況や特色などを把握する必要があることから、関係課や関連機関との連携を図りながら、宇都宮に関する資料の収集や提供に取り組みます。

事業番号	事業区分	事業・取組等	担当課
		事業概要	
23	新規 重点	みや学講座の開催	全図書館
		市民が郷土愛を育み、宇都宮について知識を深めるため、古文書や地域の資料などの図書館資源を活用して学べる「みや学講座」を開催します。	
24	拡充	地域資料のデジタルアーカイブ化の推進と資料の公開【再掲】	中央図書館 文化課
		—	
25	継続	宮の魅力再発見事業の推進	中央図書館 東図書館 南図書館
		本市の魅力を発信し、後世に伝えるため、歴史・文化・観光等に関する資料の収集・提供を行う「宮の魅力再発見コーナー ²³ （中央図書館）」や「うつのみやブランドコーナー ²⁴ （東図書館）」を充実します。また、関連資料のリストやパスファインダーの作成、講座の開催などの事業を推進します。	

重点事業の目標値

事業番号23 みや学講座の開催

指標名	平成28年度 (2016年度)	平成34年度 (2022年度)
講座開催数	0回/年	10回/年

²³ 宮の魅力再発見コーナー…宇都宮市に関して特に関心の高い歴史・文化・観光分野の図書やパンフレットを置くコーナーのこと。

²⁴ うつのみやブランドコーナー…餃子など地域が誇るブランドがさらに発展できるよう、地域産業や物産の紹介を目的として平成19年6月より東図書館に設置したコーナーのこと。

施策 10 各図書館の特色を活かした事業の実施

個人の問題解決や社会が抱える課題解決に資するためには、幅広い分野の資料情報の収集が必要であることから、各図書館の特色を活かした資料を収集・提供するとともに、関連する事業の実施に取り組みます。

事業 番号	事業 区分	事業・取組等	担当課
		事業概要	
26	拡充 重点	<u>行政支援サービス²⁵の推進</u>	中央図書館
		市職員が様々な情報を活用し、より良い行政サービスを遂行するため、求めに応じた資料・情報の調査・提供を行い、各部署が開催する研修や講座開催時には関連図書の出借やブックリストの作成などを実施します。	
27	継続	<u>科学・技術情報提供サービスの充実</u>	東図書館
		科学・技術の面白さを知り理解を深めるため、県内大学等と連携して子ども向けの講座等を実施します。また、関連資料を収集・提供するほか、関係機関と連携し、テーマに関する展示やブックリストの作成を行います。	
28	継続	<u>ビジネス支援サービスの充実</u>	東図書館 産業政策課
		本市における産業の創出と中小企業の活性化を図るため、関係機関等と連携し、ビジネスに関する資料の収集・提供やセミナーなどの事業を実施します。	
29	継続	<u>宇都宮アグリビジネス²⁶ブランド化への支援</u>	東図書館 農林生産流通課
		本市の農産物やアグリビジネスについて市民にPRし関心を高めるため、関連資料のコーナーの充実を図ります。また、地域ブランドの発掘・創造支援のため、関連機関との連携事業を実施するほか、新着図書情報を発信していきます。	
30	継続	<u>宇都宮プロスポーツアーカイブ事業²⁷の推進</u>	東図書館 都市魅力創造課
		プロスポーツを活かしたまちづくりや地域活性化のため、宇都宮に活動拠点を置くプロスポーツチームの関連資料を収集・保存・提供し、連携事業を実施していきます。	

²⁵ 行政支援サービス…市職員が業務上必要とする資料を、行政情報センター（本庁）などまで搬送し提供するサービス。平成18年9月から中央図書館が実施。

²⁶ アグリビジネス…農資源の供給から生産・流通・加工までを含めた産業としての農業。

²⁷ プロスポーツアーカイブ事業…地域のプロスポーツの普及促進を行うためのPRなどの支援事業。

31	継続	子育て・家庭生活支援情報の充実	南図書館
		子育てや家庭生活に関する情報を提供するため、市民ニーズに応じた資料の収集・提供を行うほか、関連講座を開催します。	

重点事業の目標値

事業番号26 行政支援サービスの推進

指標名	平成28年度 (2016年度)	平成34年度 (2022年度)
貸出冊数	1,700冊	2,000冊



↑ 地元のプロスポーツチームとの連携事業



↑ 子育て・家庭生活関連コーナーの設置

施策 1 1 課題解決に役立つ資料や情報の提供

市民や社会の課題解決を支援するためには、図書館の適切な資料、情報の収集・提供が重要であることから、利用者ニーズに合った資料、情報の収集に努めるとともに、最適な資料等の提供に取り組みます。

事業 番号	事業 区分	事業・取組等	担当課
		事業概要	
3 2	継続	生活応援サービス²⁸の充実	全図書館
		市民が抱える課題解決への一助となるため、高齢者の暮らしや、医療・健康に関することなど、市民の利便性やニーズに応じた資料コーナーの充実を図るほか、関連事業を展開します。	
3 3	継続	レファレンスサービスの充実	全図書館
		市民の主体的な学習活動や課題解決に役立つ資料・情報を提供するため、レファレンス事例のデータベース化等を進めます。また、専門研修への参加や内部研修の実施などにより司書の能力向上に努め、サービスの充実を図ります。	



↑レファレンスの様子

²⁸ 生活応援サービス…医療や健康、子育てなど暮らしに深く関わる問題に関し、コーナーを設置するとともに関係機関等とも連携し資料の収集・提供を行うサービス。医療・健康コーナー、子育てコーナー、大活字コーナー、On Japan コーナー、ロングライフコーナーがある。

基本目標Ⅳ 読書活動を介して人と人が交流しています。

施策12 人と人をつなぐ場や機会の提供の充実

読書活動を介して人と人が交流するためには、図書館がその場や資源を活かして支援することが必要であることから、参加者同士、ボランティア同士などが交流できる事業に取り組みます。

事業番号	事業区分	事業・取組等	担当課
		事業概要	
34	拡充 重点	世代を超えた交流の場の創出	全図書館
		図書館利用と地域の幅広い年代の交流の促進を図るため、地域の学校・企業・団体・ボランティア等と連携し、「南としょかん祭」「かわち図書館まつり」を開催します。また、学生等が講師となり、図書館資源を活用した子ども向け講座等を開催します。	
35	継続	本を通じて語り合える事業の充実	全図書館
		人と人が読書の楽しさを共有する場を創出するため、特定のテーマについて参加者同士が気軽に語り合える <u>カフェトーク</u> ²⁹ や、おすすめ本の紹介をしあう <u>ビブリオバトル</u> 、 <u>音読教室</u> ³⁰ 等を実施します。	

重点事業の目標値

事業番号34 世代を超えた交流の場の創出

指標名	平成28年度 (2016年度)	平成34年度 (2022年度)
講座・イベントの開催数	18回/年	23回/年

²⁹ カフェトーク…講師と受講者がお茶などを飲みながら、気軽な雰囲気の中で特定のテーマについて語り合うイベント。

³⁰ 音読教室…シニア世代応援講座のひとつ。脳全体の活性化が期待される音読を、図書館の資料を用いて実施する講座。平成28年度より実施。

施策 13 市民との協働による読書活動の推進

市民が読書活動に親しむためには、学校や図書館等でのボランティアによる活動が重要であることから、読書の楽しみを伝えるボランティアの更なる充実、育成を図る事業や人と人が交流する機会を創出し、市民との協働による読書活動の更なる推進を図ります。

事業 番号	事業 区分	事業・取組等	担当課
		事業概要	
36	継続	読書活動を支援するボランティアの育成・強化【再掲】	全図書館 学校教育課
		—	
37	継続	読書関係ボランティアの交流の推進	全図書館
		読書活動や図書館に関わるボランティアの確保や活動の充実を図るため、ボランティア同士の意見交換や交流を通して、図書館とボランティアの結びつきを強化し、サービスの向上を目指します。	



V 計画の推進

1 計画の進行管理

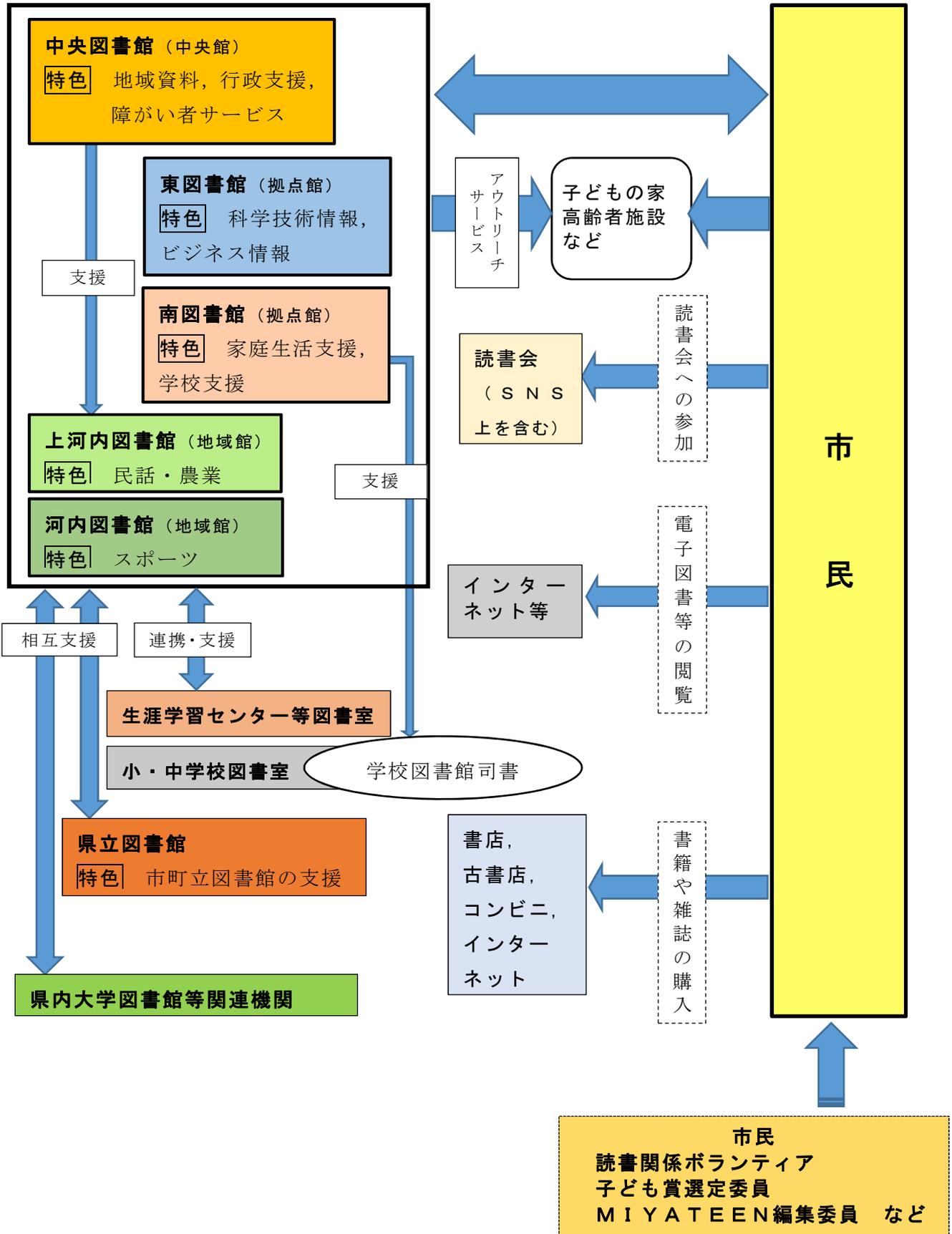
本計画の各施策・事業について、その取組実績を定量的に把握し、評価を行うとともに、教育委員会の附属機関である「社会教育委員の会議」や「参考人³¹」に報告、意見を聴取し、効果的な推進を図ります。

2 計画の推進体制

本計画の着実な推進を図るため、施策・事業の実施にあたっては、図書館、生涯学習センター図書室等、さらに市民、家庭、学校等が連携することにより、様々な事業に取り組みます。

³¹ 参考人…平成24年6月社会教育委員の会議において「図書館事業は専門性が高く、利用者も多様であり、社会教育委員の会議の意見を補完するため、専門家や身近な利用者の意見聴取が必要」という意見を受け、同会議の参考となる情報を提供するため、意見聴取を行う有識者等。

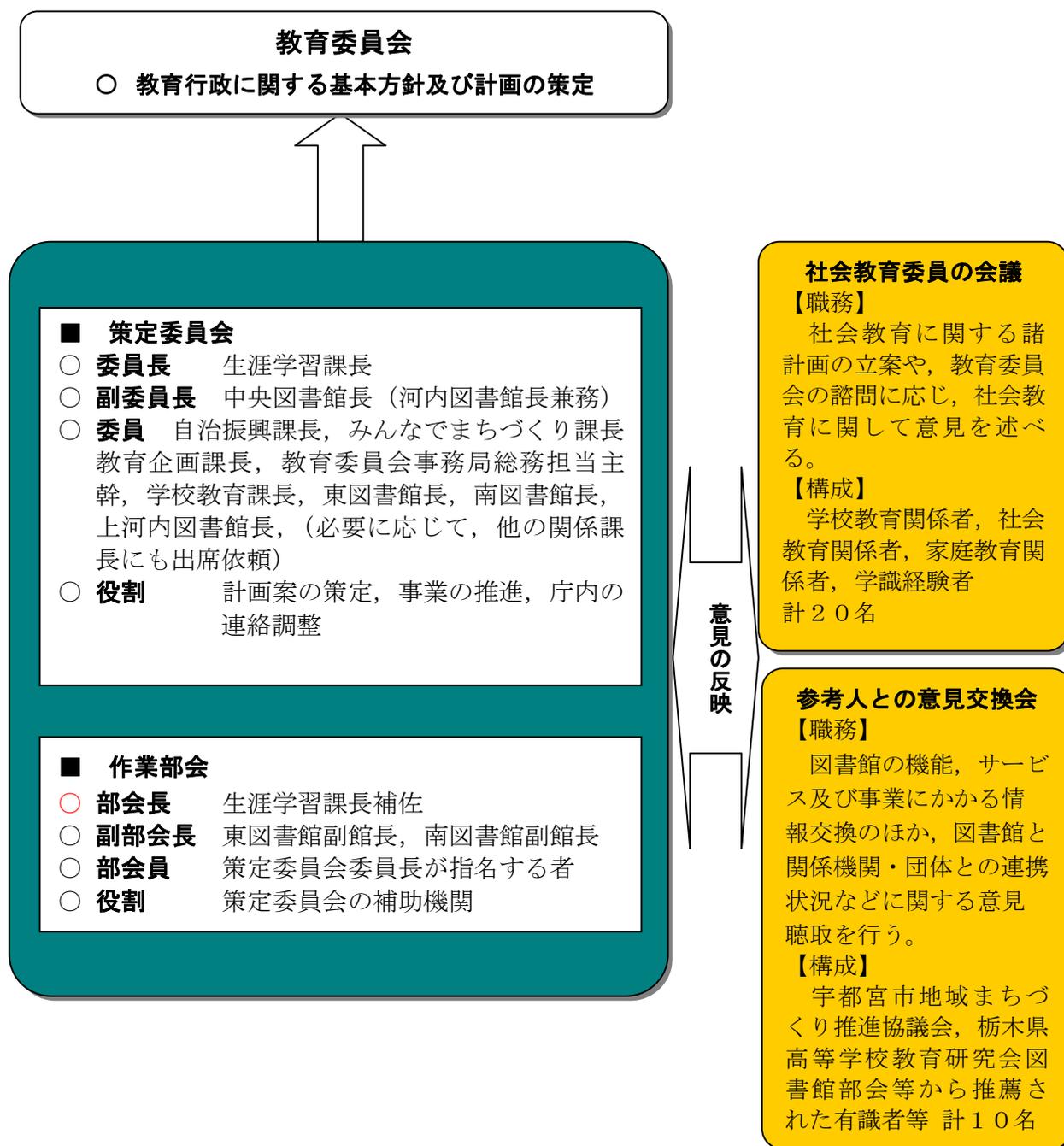
本市の読書活動推進体制イメージ



■ 資料編 ■

- 資料1 計画の策定体制
- 資料2 計画策定の経緯
- 資料3 アンケート調査結果
- 資料4 用語解説

資料1 「第2次宇都宮市読書活動推進計画」の策定体制



資料2 計画策定の経緯

日程	実施項目	内容
平成29年7月18日	第1回社会教育委員の会議	・「宇都宮市読書活動推進計画」に関する施策事業の実績評価について
平成29年8月23日	関係課長等会議	・「(仮称)第2次宇都宮市読書活動推進計画」の策定体制等について
平成29年9月28日	第1回作業部会の開催	・「(仮称)第2次宇都宮市読書活動推進計画」の策定体制等について ・「(仮称)第2次宇都宮市読書活動推進計画」の骨子(案)について
平成29年10月11日	第1回策定委員会の開催	・「(仮称)第2次宇都宮市読書活動推進計画」の骨子(案)について
平成29年10月31日	図書館事業に係る意見交換会	・「(仮称)第2次宇都宮市読書活動推進計画」の策定体制等について ・「(仮称)第2次宇都宮市読書活動推進計画」の骨子(案)について
平成29年11月13日	第2回社会教育委員の会議	・「(仮称)第2次宇都宮市読書活動推進計画」の策定について
平成29年11月21日	委員 de サロンへの付議	・「(仮称)第2次読書活動推進計画」の骨子(案)について
平成29年11月30日	生涯学習センター所長会議	・「(仮称)第2次読書活動推進計画」の骨子(案)について
平成29年12月21日 ～平成30年1月10日	事業調査の実施	
平成29年12月27日	第2回作業部会の開催	・「(仮称)第2次読書活動推進計画」の施策体系(案)について
平成30年1月17日	第3回作業部会の開催	・「(仮称)第2次読書活動推進計画」の素案について
平成30年2月1日	第2回策定委員会の開催	・「第2次読書活動推進計画」の素案について
平成30年2月15日	図書館事業に係る意見交換会	・「第2次読書活動推進計画」の素案について
平成30年3月12日	社会教育委員の会議	・「第2次読書活動推進計画」の素案について
平成30年3月20日	教育委員会・公表	・計画の最終案について
	計画の配布	

資料3 アンケート調査結果

I 平成28年度 生涯学習市民意識調査結果（抜粋）

1 調査の目的

本市の社会教育・生涯学習の現状や市民のニーズを把握し、「第2次宇都宮市地域教育推進計画」及び「宇都宮市読書活動推進計画」改定における基礎資料とすることを目的として実施した。

2 調査対象

住民基本台帳に基づき、満20歳以上80歳未満の市民3,000人を年齢区分無作為に抽出

3 調査方法

郵送によるアンケート方式

4 調査期間

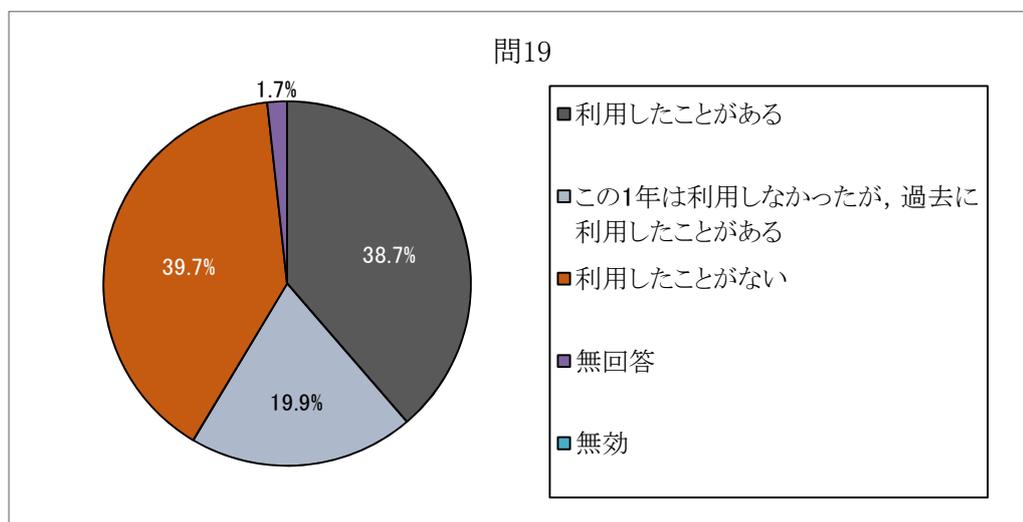
平成28年10月1日から10月31日

5 回収結果

有効回収数（率） 1,093人（36.4%）

● 図書館について

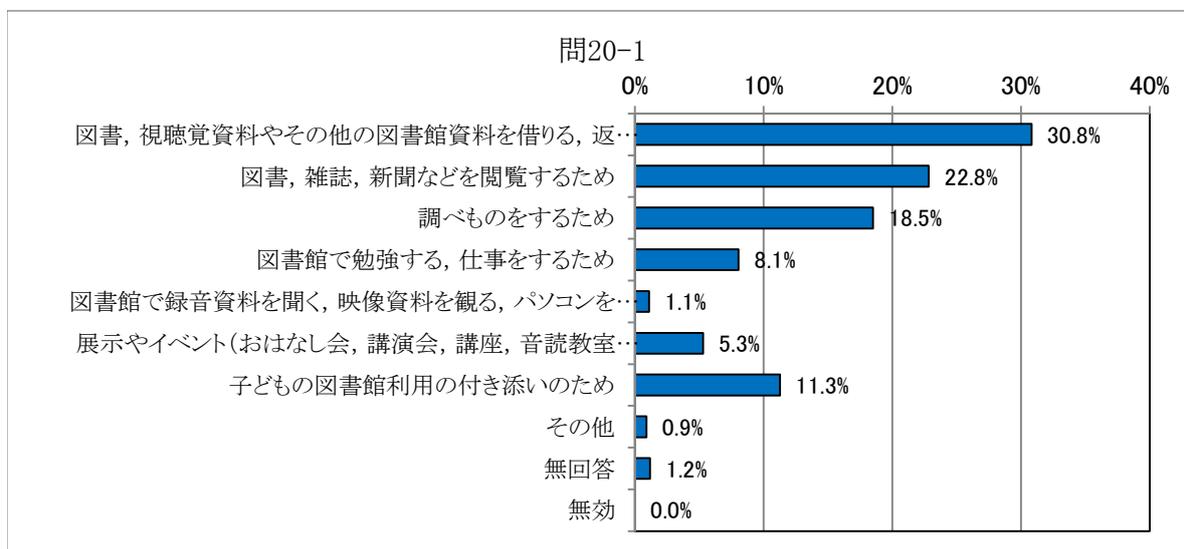
【問19】最近1年間で宇都宮市内の図書館や図書室を利用したことがありますか。あてはまる数字1つに○をつけてください。



「利用したことがない」39.7%

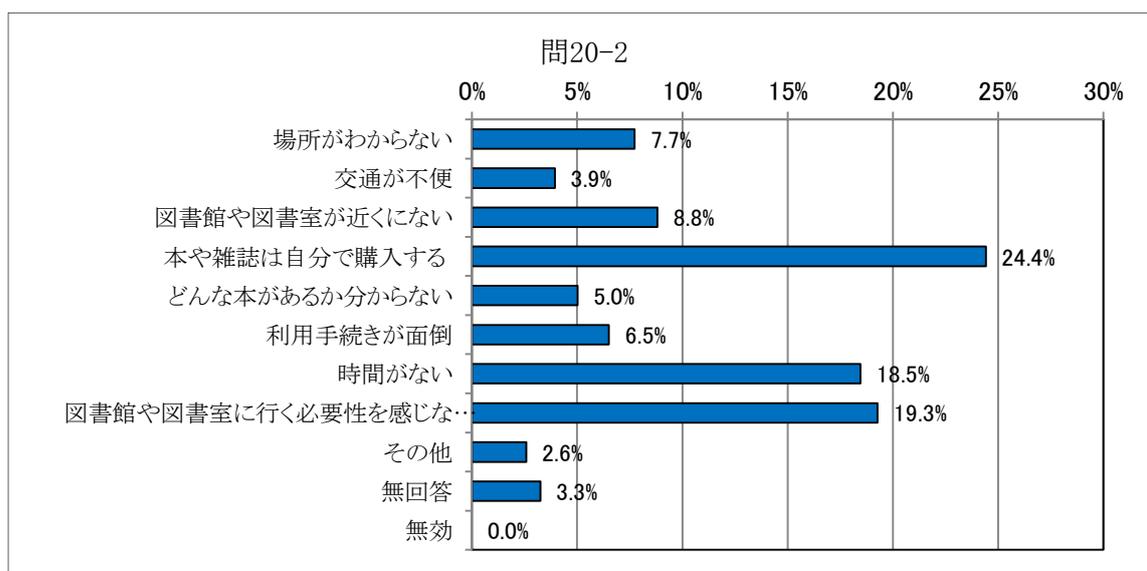
利用したことがある人と利用したことがない人は、それぞれおよそ40%近くにのびます。

【問 20-1】 問 19 で「利用したことがある」「この 1 年は利用しなかったが、過去に利用したことがある」と答えた方にお伺いします。図書館や図書室を利用する主な目的について、あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)



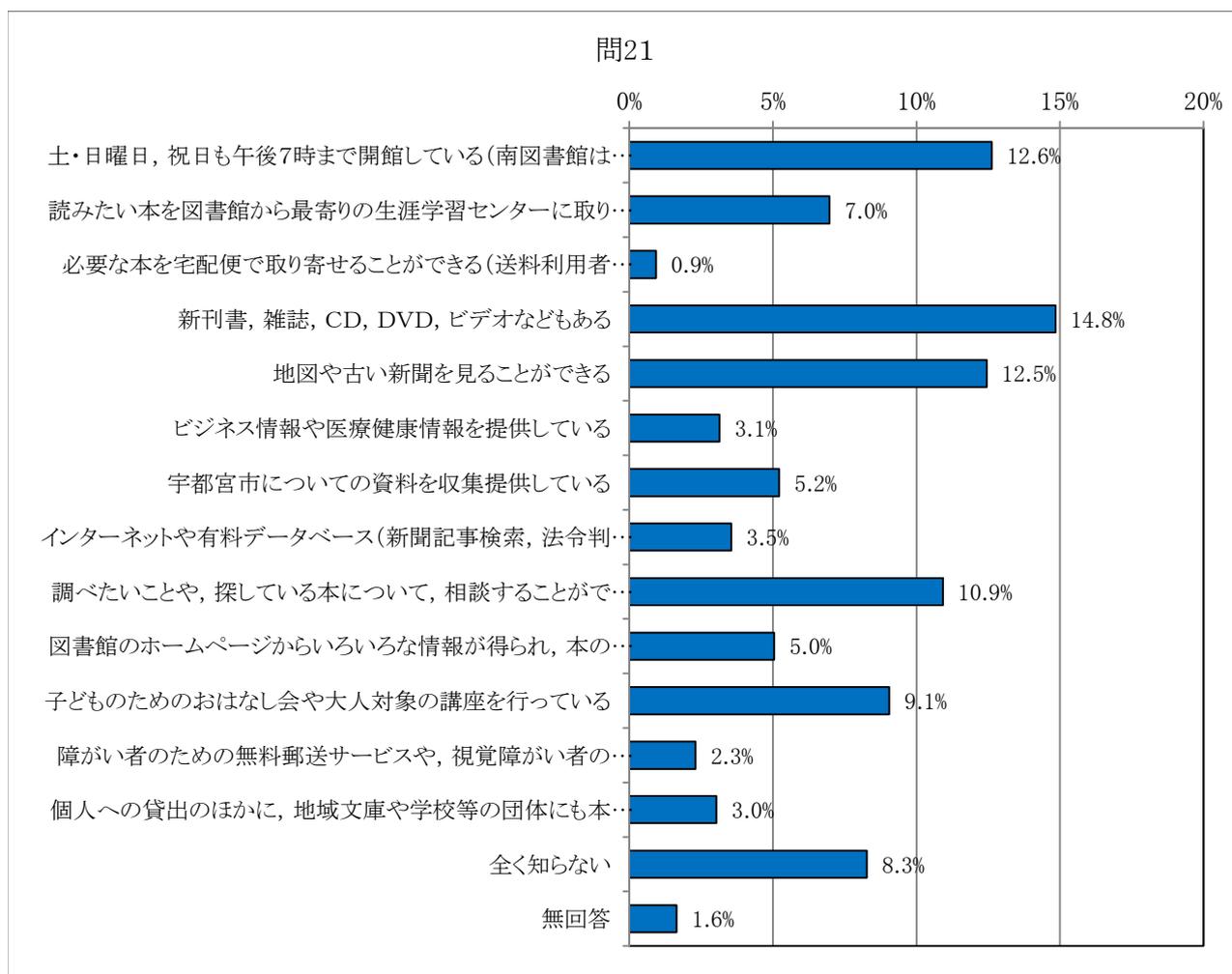
「図書、視聴覚資料やその他の図書館資料を借りる、返すため」30.8%
資料の貸出・返却について多いのが、資料の閲覧、調べ物、子どもとの来館と続きます。

【問 20-2】 問 19 で「利用したことがない」と答えた方にお伺いします。図書館や図書室を利用しない理由について、あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)



「本や雑誌は自分で購入する」24.4%
自分で購入するについて、必要性を感じない、時間がないと続きます。

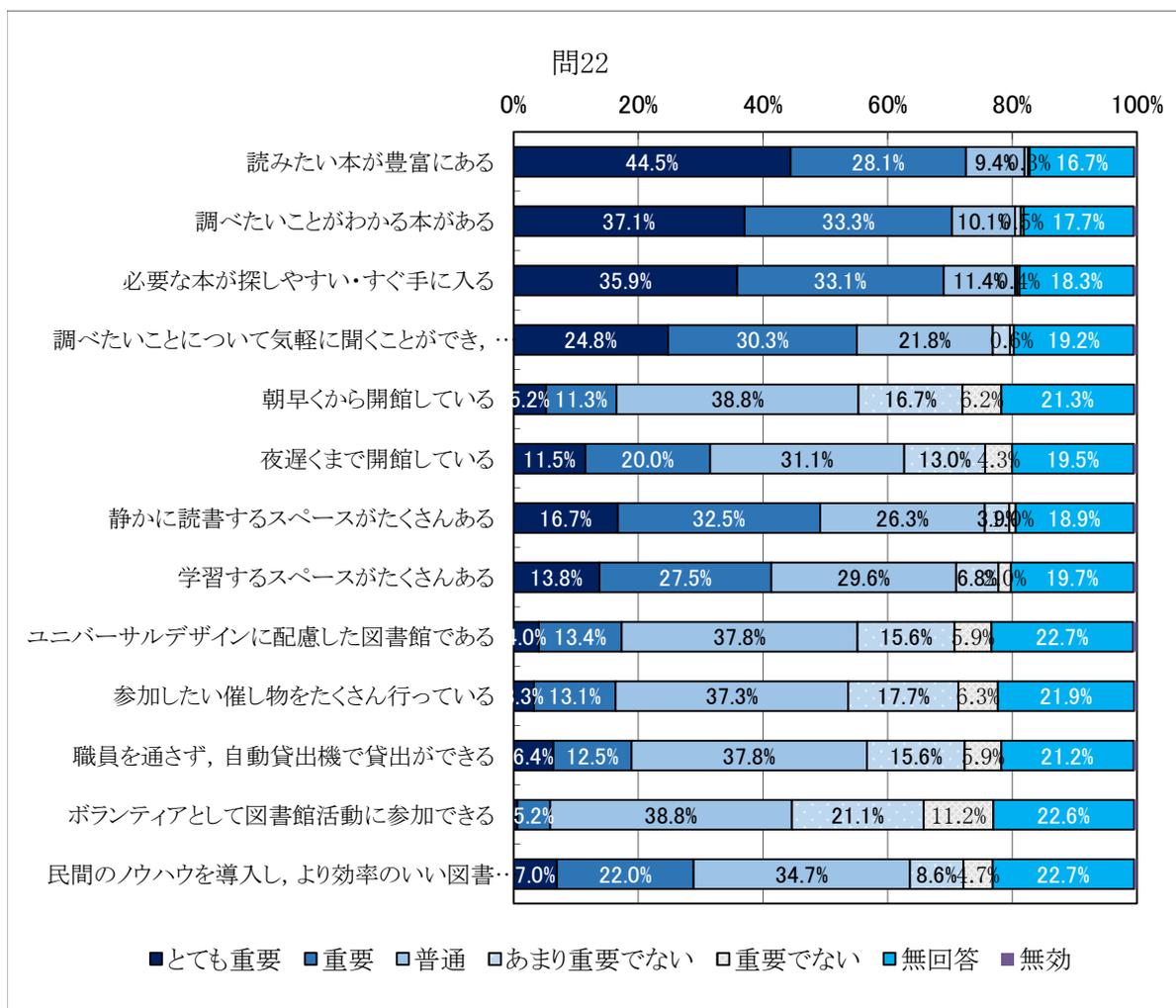
【問 21】あなたは、宇都宮市の図書館で行っている下記のサービスについて知っていますか。知っているものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)



「新刊書、雑誌、CD、DVD、ビデオなどもある」14.8%

図書館には古い本だけでなく、新刊書や雑誌、視聴覚資料もあることを知っている人がもっとも多く、ついで土日、祝日も午後7時まで開館している、地図や古い新聞を見ることができると続きます。

【問 22】あなたが、図書館に望むことは何ですか。1～14のそれぞれの項目について、あてはまる数字に○をつけてください。



「読みたい本が豊富にある」72.6%

「とても重要」と「重要」を合わせると、読みたい本が豊富にあることをもっとも望んでおり、ついで調べたいことがわかる本がある、必要な本が探しやすい・すぐ手に入ると続きます。

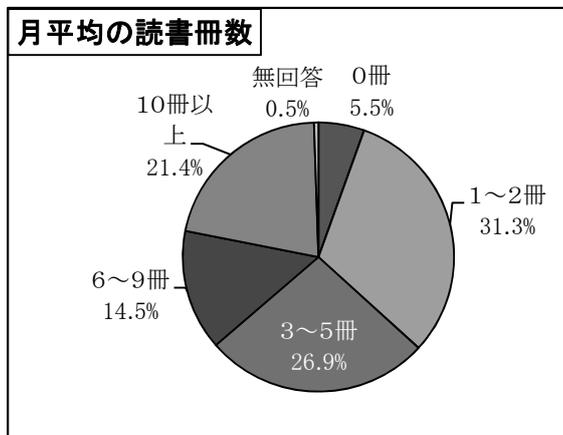
II 一般読書アンケート結果（抜粋）

- 1 調査場所 宇都宮市立図書館5館
- 2 調査年月日 平成29年7月31日～8月14日
- 3 対象者 19歳以上の一般市民
- 4 回答数 1,188人

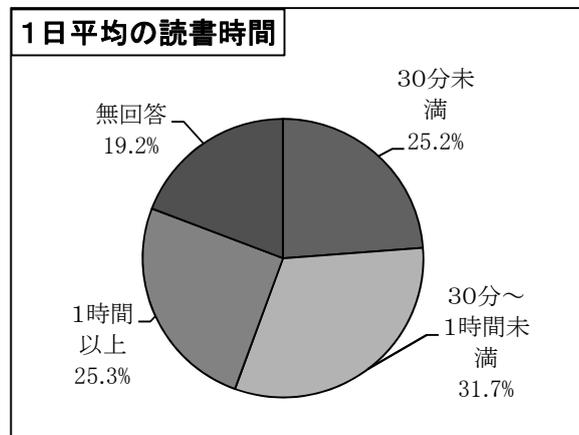
5 集計結果

① 読書量について（雑誌、マンガは除く。）

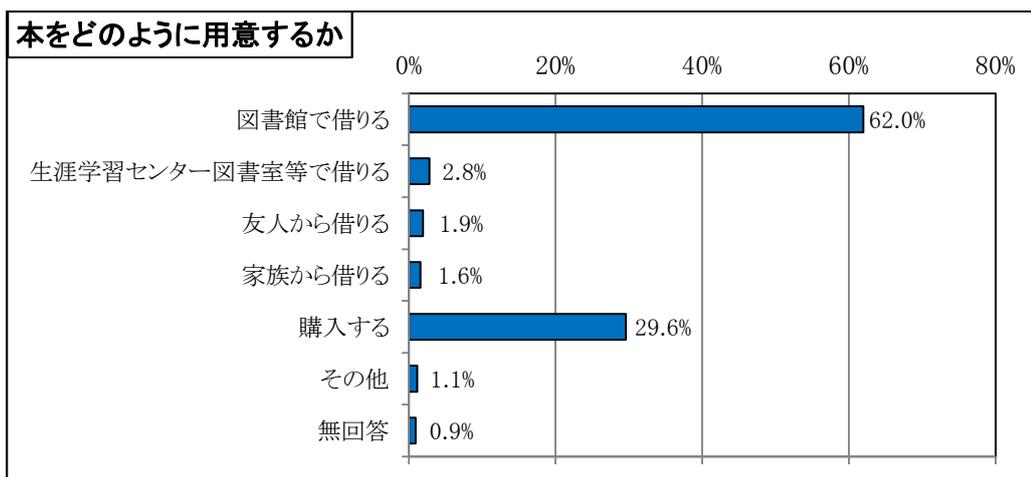
・ 1か月に何冊くらい本を読みますか



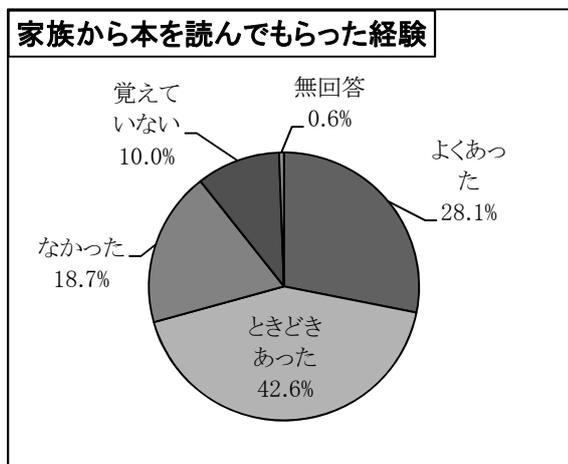
・ 1日に何時間くらい読書をしますか



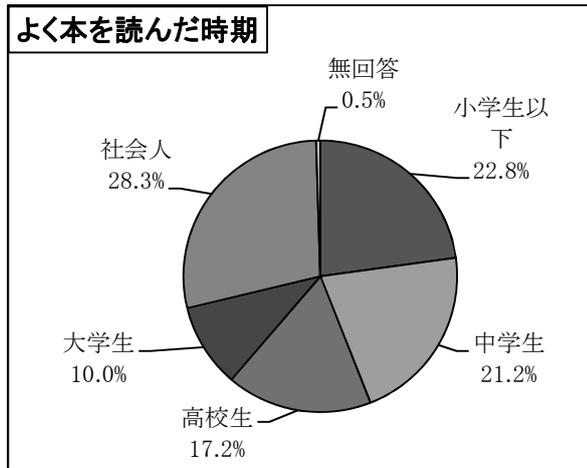
② あなたは、読書や調べ物等に必要な本をどのように用意しますか。



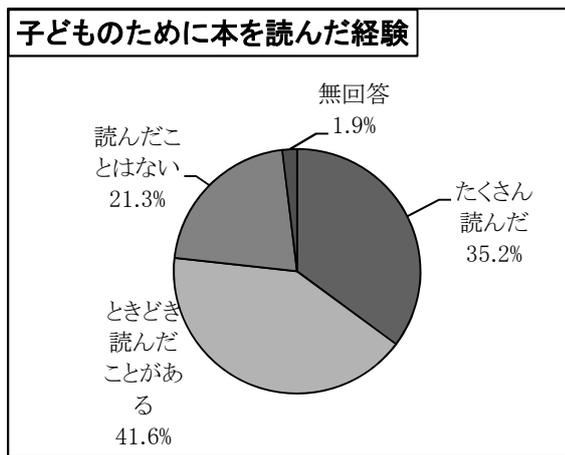
③ 子どもの頃、家族から本を読んでもらったり、昔話を聞いたりしたことがありますか。



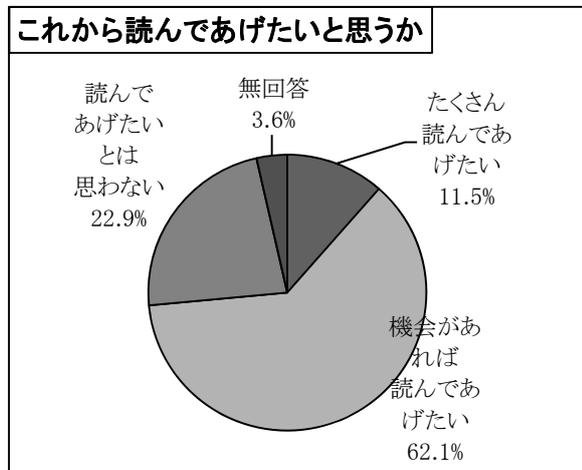
④ あなたは、いつ頃よく本を読んでいたか。



⑤ あなたは、子ども（不特定多数を含む）のために本を読んだことがありますか。



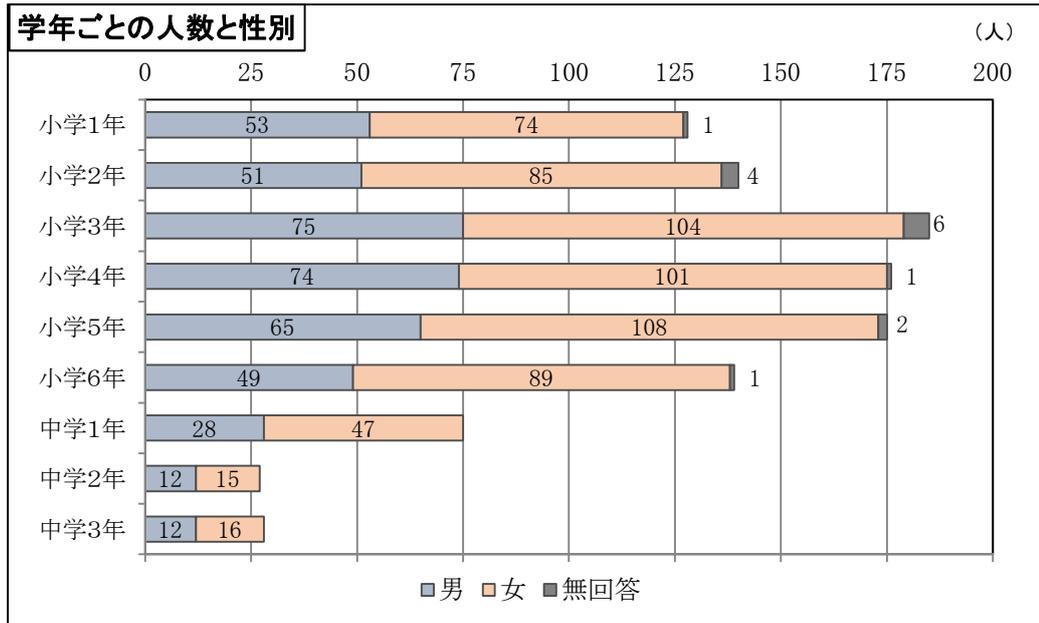
⑥ ⑤で「読んだことはない」と回答した方に伺います。これから読んであげたいと思いますか。



Ⅲ 子ども読書アンケート結果

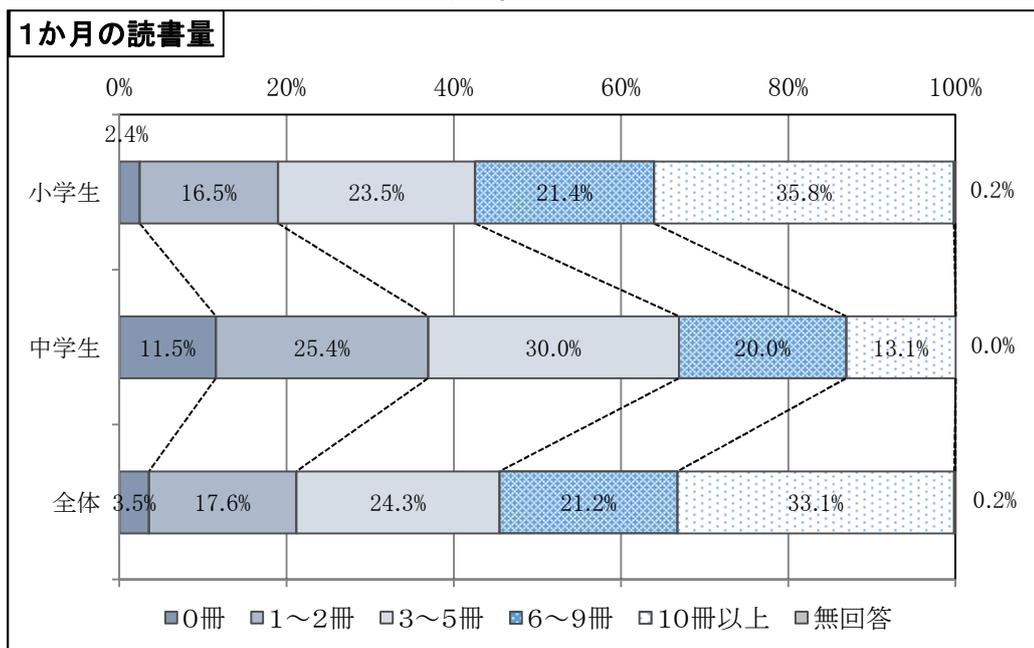
- 1 調査場所 宇都宮市立図書館5館
- 2 調査年月日 平成29年7月31日～8月14日
- 3 対象者 小学生，中学生の施設利用者
- 4 回答数 1,083人（有効回答：1,073人）
- 5 集計結果

① あなたの学年，性別をおしえてください。

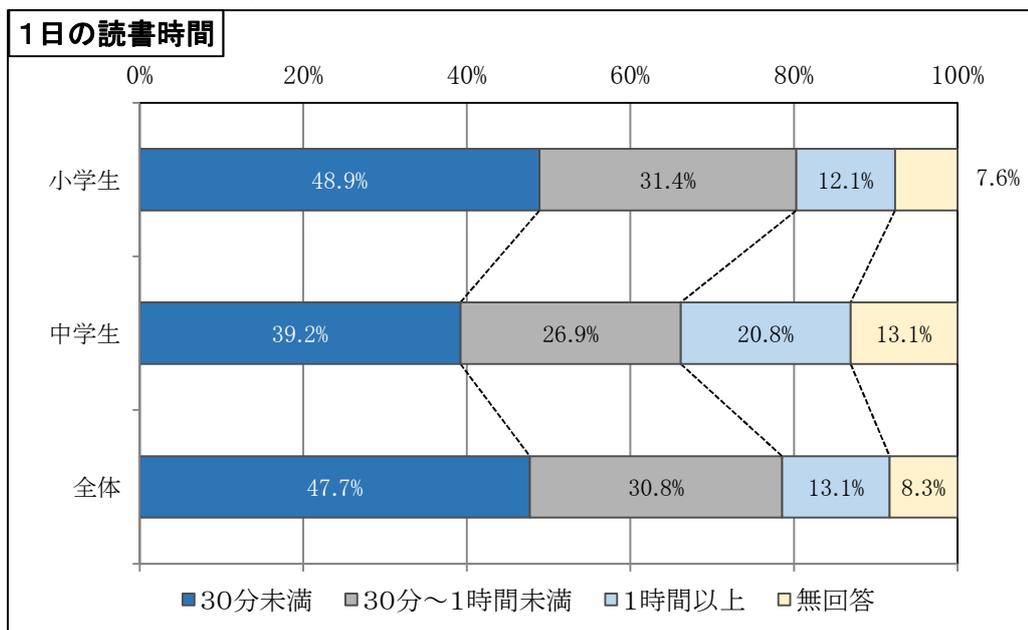


② 読書量について（雑誌，マンガは除く。）

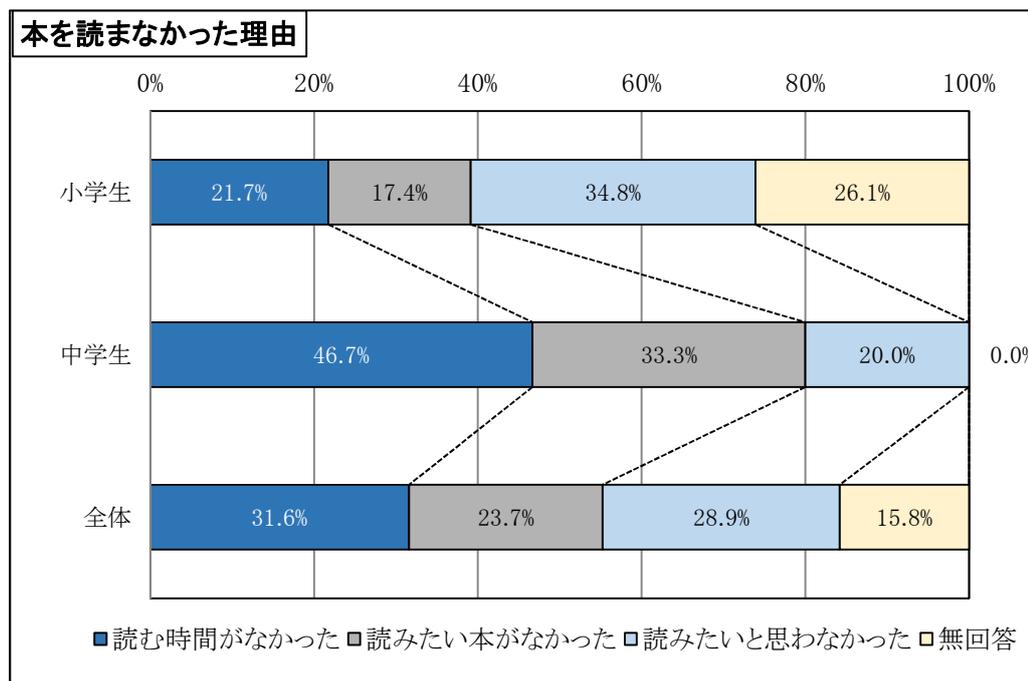
・1か月になん冊くらい本を読みますか。



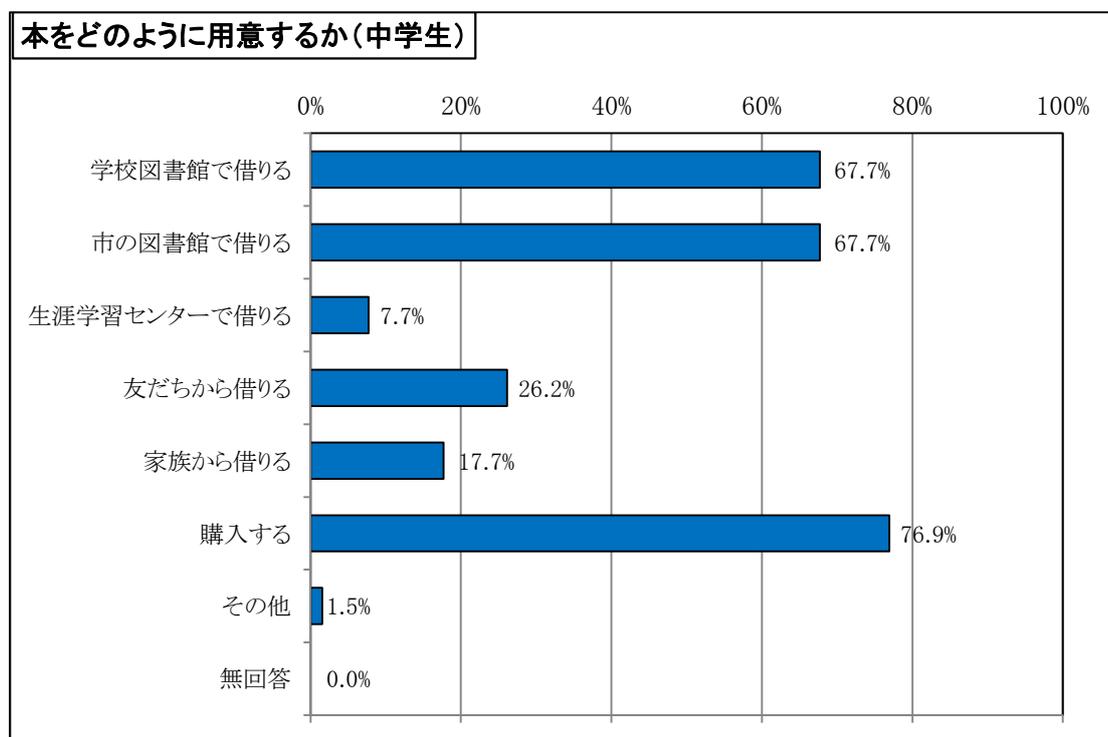
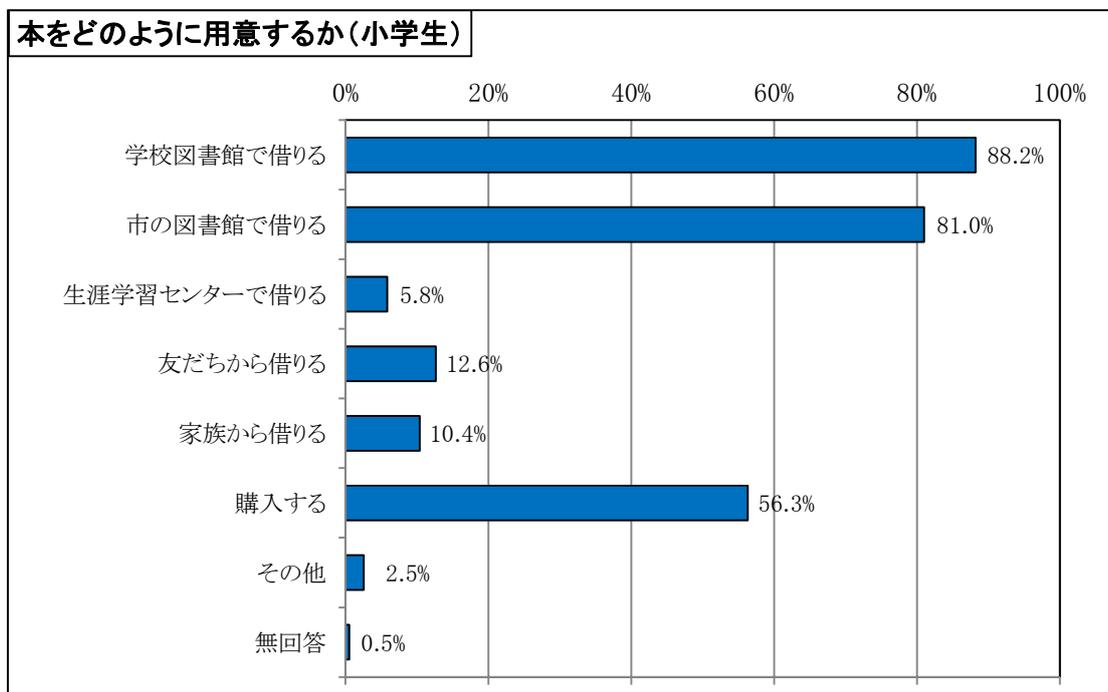
・ 1日に何時間ぐらい読書をしますか



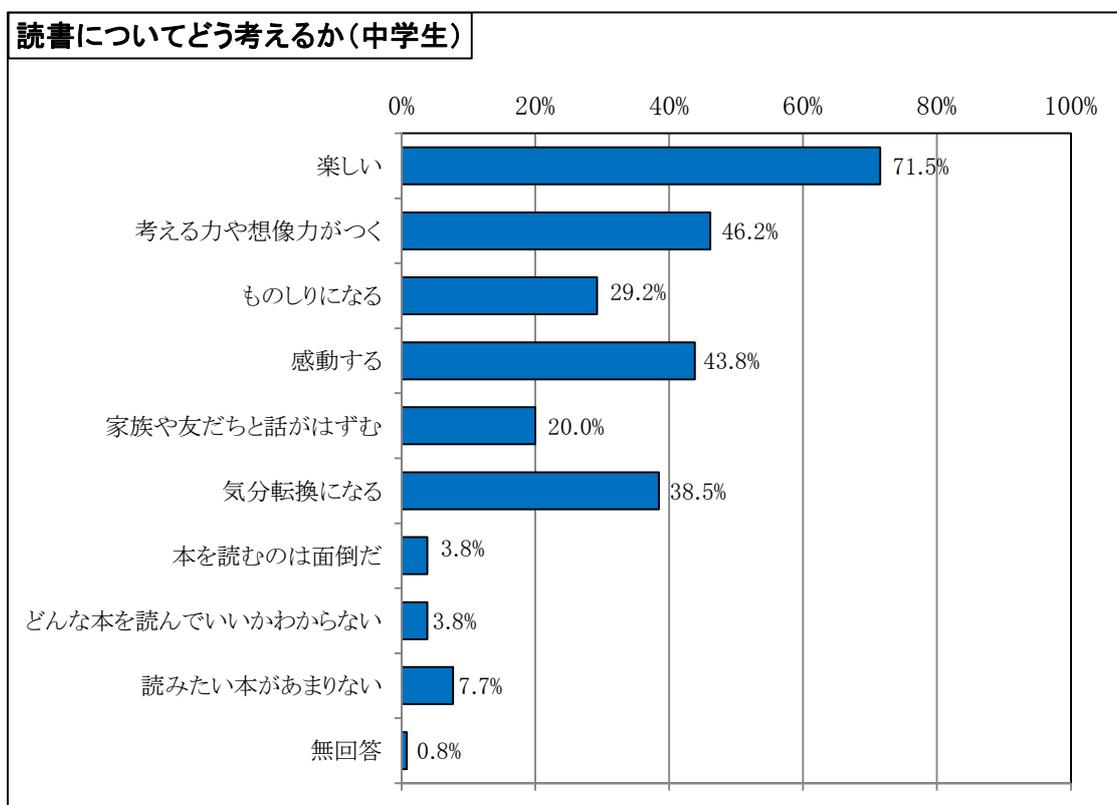
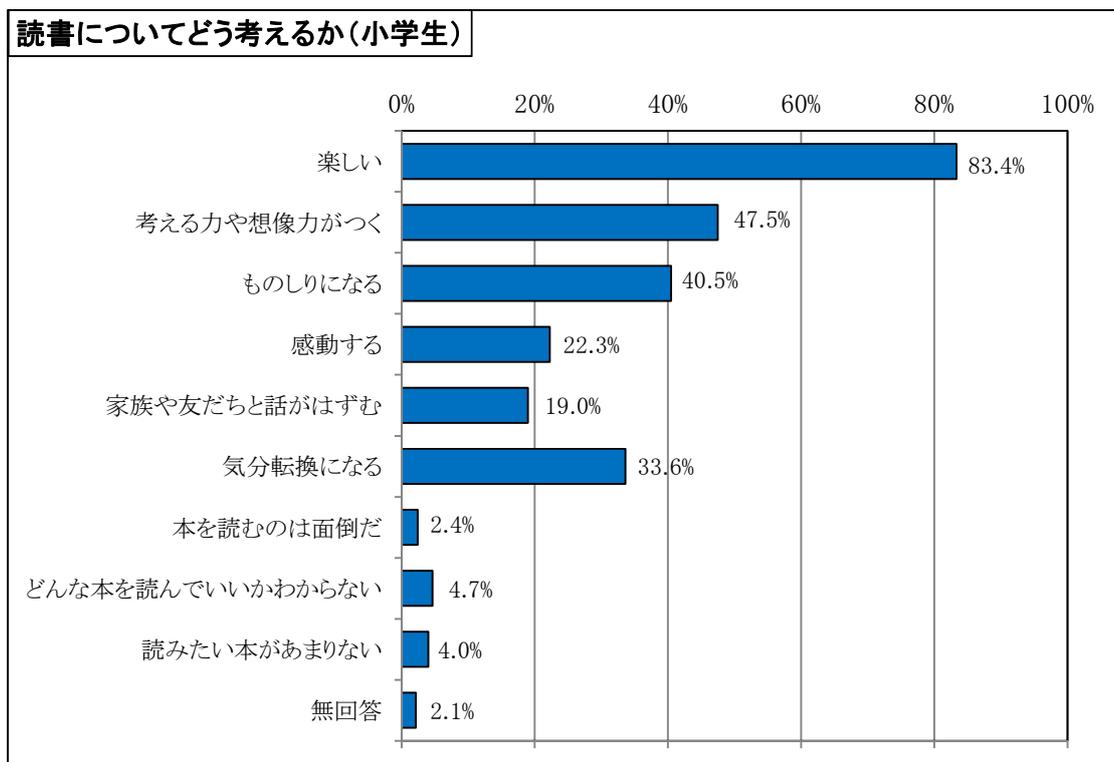
③ ②で「0冊」とこたえた人にききます。本を読まなかった理由は何ですか。



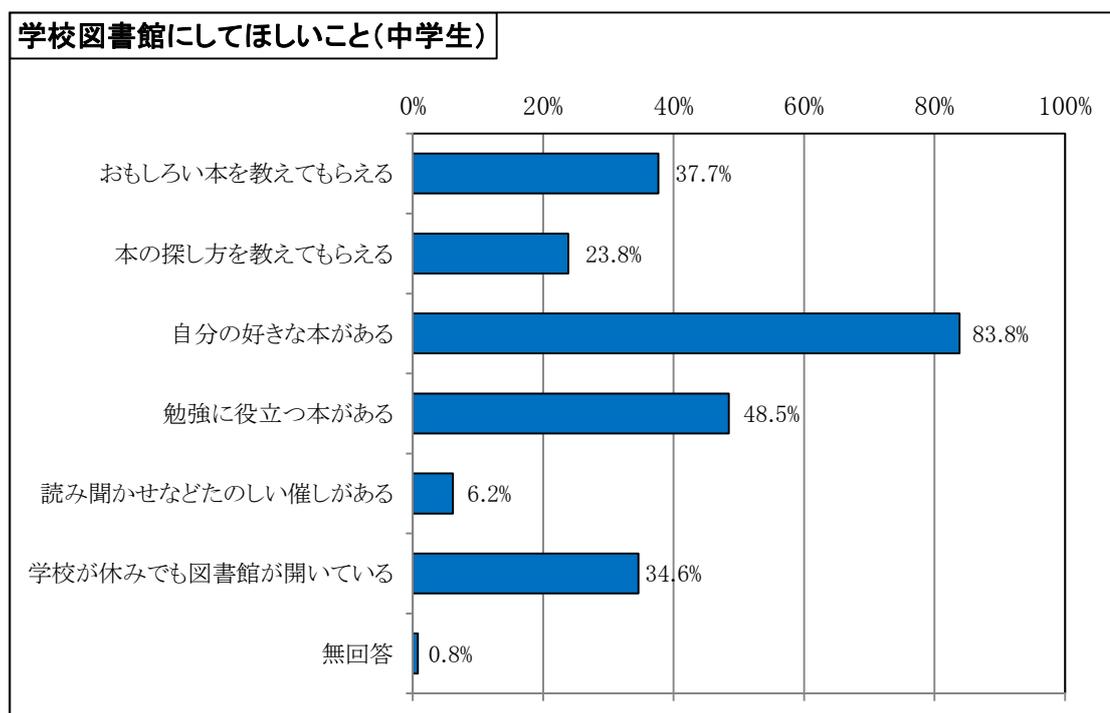
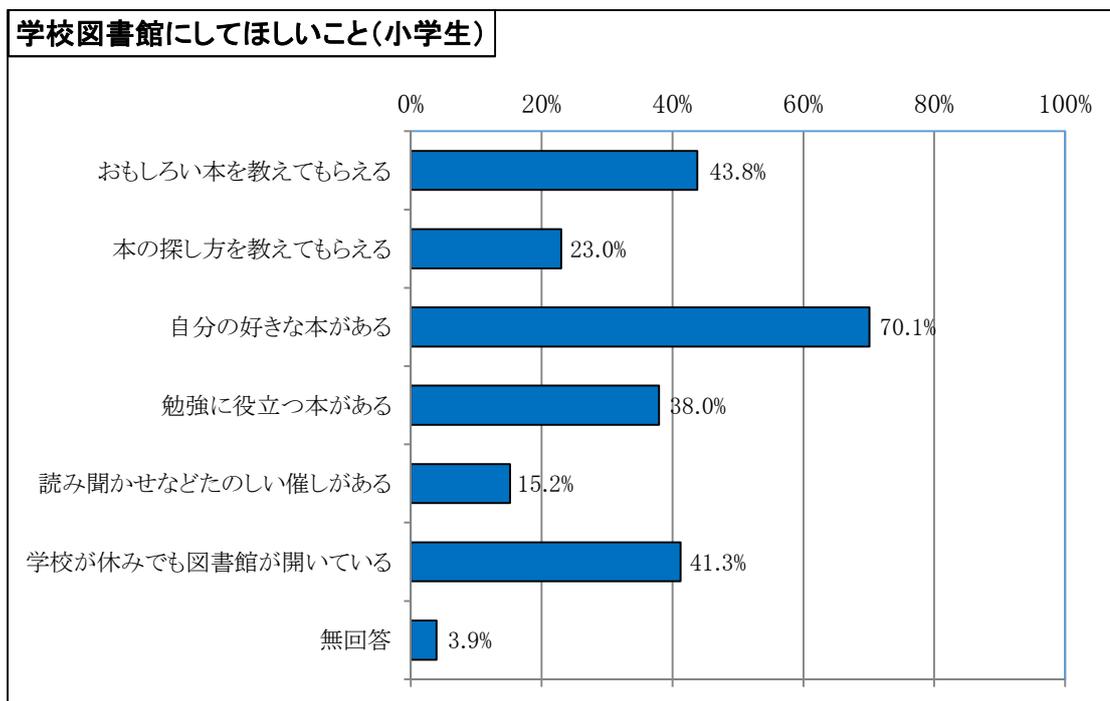
- ④ あなたは、読む本をどのように用意しますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。



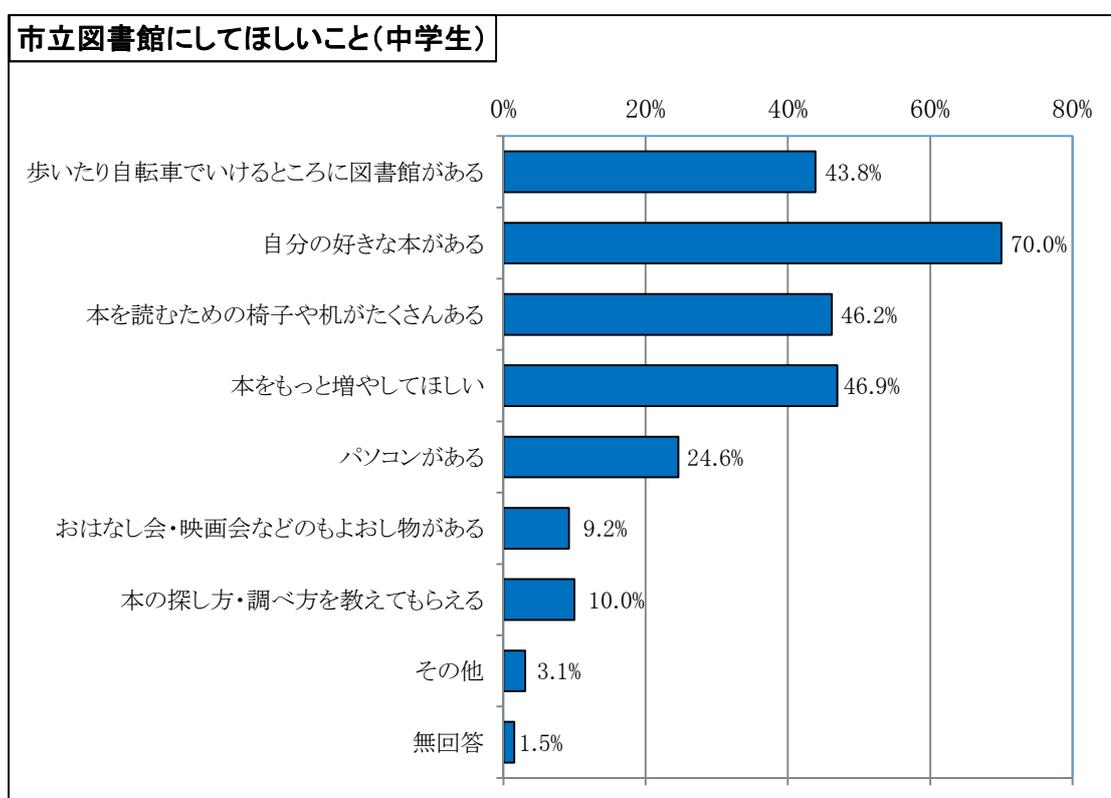
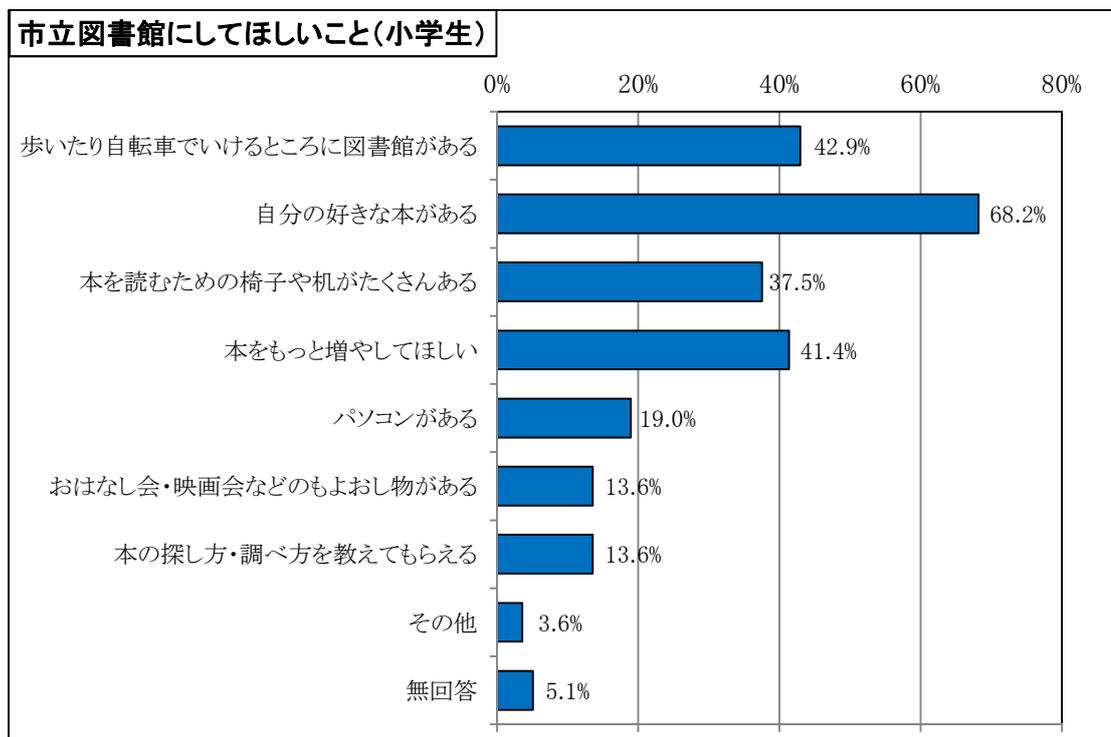
⑤ 読書についてどのように考えていますか。3つまで選んで○をつけてください。



⑥ 学校図書館にしてほしいことはなんですか。3つまで選んで○をつけてください。



⑦ 市立図書館にしてほしいことを、3つまで選んでください。



IV 学校読み聞かせボランティアアンケート結果（抜粋）

- 1 調査場所 市内小中学校
- 2 調査年月日 平成29年9月4日～22日
- 3 対象者 学校で読み聞かせ等の活動をしているボランティア
- 4 回答数 81件（学校数合計76校：小学校68校，中学校8校）

回答者数	回答数	構成比
小学校68校(68校中)	72	88.9%
中学校8校(25校中)	9	11.1%
合計	81	100.0%

5 集計結果

① 打合せや勉強会

選択項目	回答数	構成比
行っている	70	86.4%
行っていない	11	13.6%
無回答	0	0
合計	81	100.0%

② 他校との交流

選択項目	回答数	構成比
行っている	7	8.6%
行っていない	73	90.1%
無回答	1	1.2%
合計	81	100.0%

③ 活動の際に困っていること（記述を内容により分類）

分類項目	回答数	構成比
グループの人数が少ない	38	34.2%
本を選ぶ基準	10	9.0%
活動時間や日数が短い	9	8.1%
読み聞かせ用の本の準備について	4	3.6%
打合せや勉強会について	2	1.8%
その他	28	25.2%
無回答	20	18.0%
合計	111	100.0%

※活動の際に困っていること（「その他」より）

- ・学年に合った選書が大変（特に高学年）
- ・流行の本などがわからない
- ・メンバーの固定化傾向，もっと沢山の人が加わってほしい
- ・活動回数が少なくなっている

④ 市の図書館に対する要望（記述を内容により分類）

分類項目	回答数	構成比
読み聞かせ用の本の貸出について	17	15.2%
講座・講習会等の開催について	15	13.4%
本の紹介(読み聞かせ本コーナー設置含む)	10	8.9%
読み聞かせ用の本のリスト	8	7.1%
団体貸出用の本の充実	5	4.5%
レファレンス・相談	5	4.5%
読み聞かせについての啓発	3	2.7%
ビッグブックの貸出拡大	2	1.8%
その他	29	25.9%
無回答	18	16.1%
合計	112	100.0%

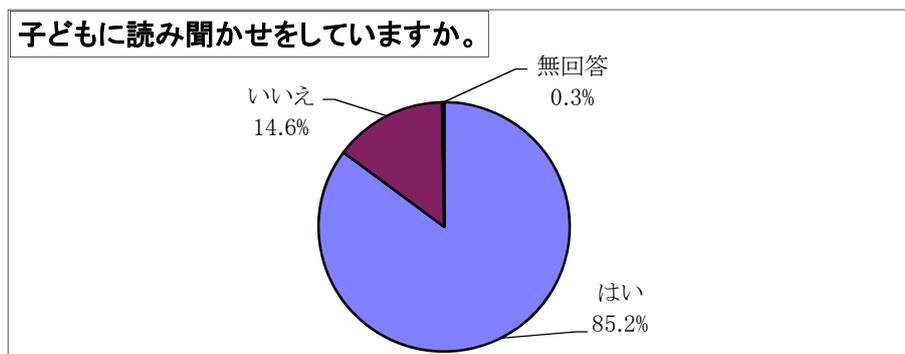
※市の図書館に対する要望（「その他」より）

- ・おはなし会で参考になるような講座を開いてほしい
- ・貸出期間を3週間にしていただけると助かる
- ・読み聞かせのおすすめ本のコーナーがあるといい
- ・読み聞かせや読書に興味がある人のための講座を平日の夜や休日にも開いてほしい
- ・団体貸出用の絵本にも、新しいものを用意してほしい
- ・（講座に）参加できない人もいるので、読み聞かせのやり方をまとめたマニュアルがあれば、未経験者にも心強い
- ・年に1度初心者向けの勉強会があるが、初心者以外の勉強会もやってほしい

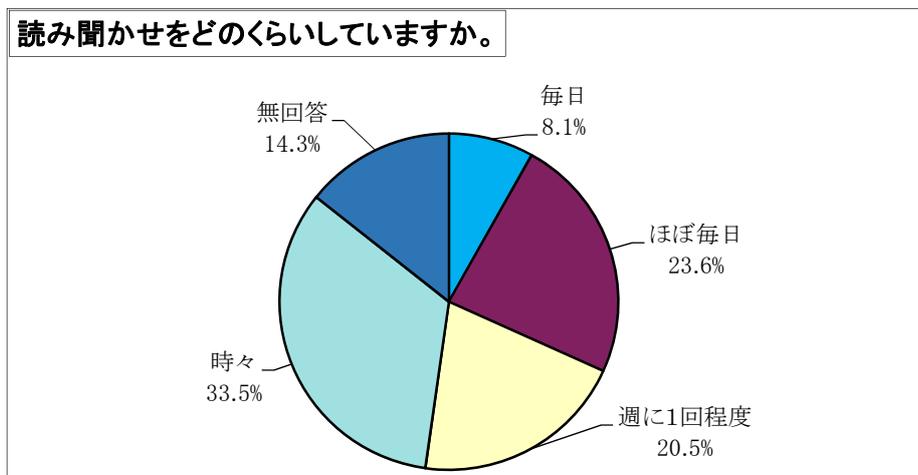
V 親子読書アンケート結果（幼稚園・保育園・認定こども園）（抜粋）

- 1 調査場所 幼稚園（4園）、保育園（市立4園、私立7園）、認定こども園（3園）、計18園
- 2 調査年月日 平成29年9月4日～22日
- 3 対象者 幼稚園、保育園、認定こども園に通う2歳児と5歳児の保護者
- 4 回答数 762人
- 5 集計結果

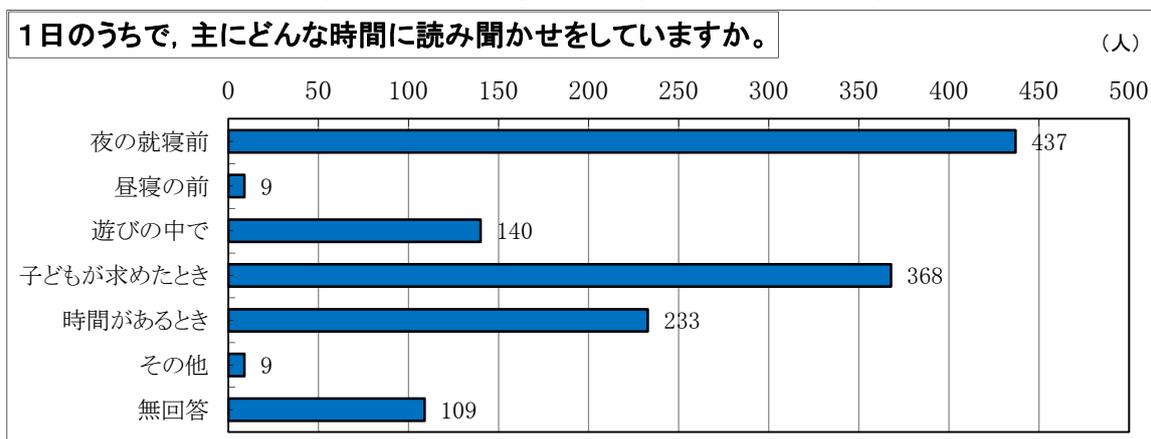
問1 子どもに読み聞かせをしていますか。



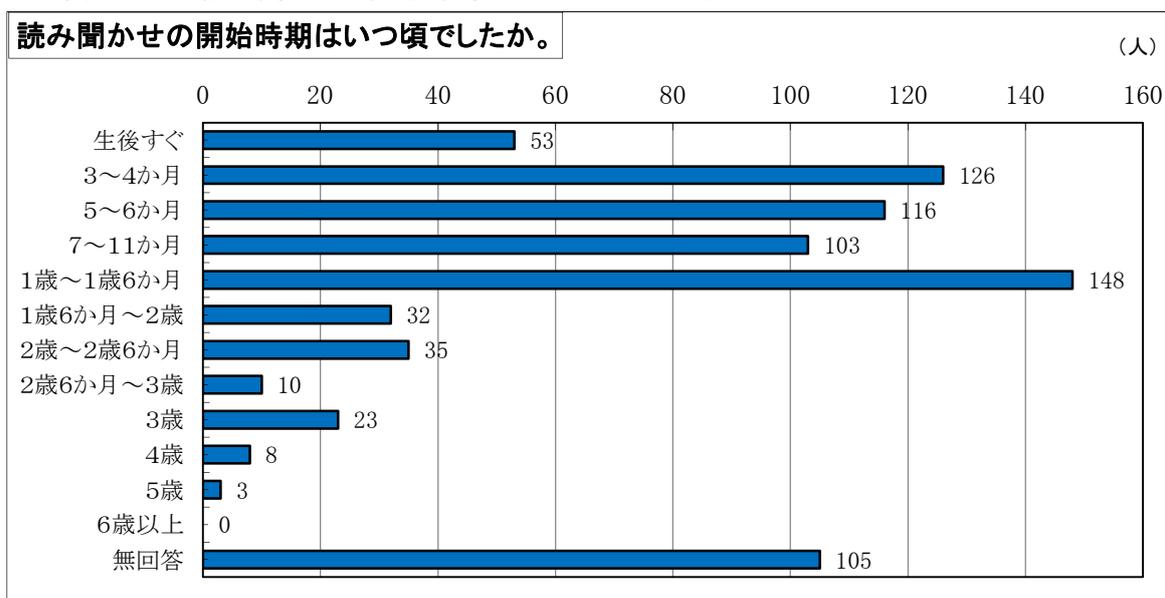
問2-1 読み聞かせをどのくらいしていますか。



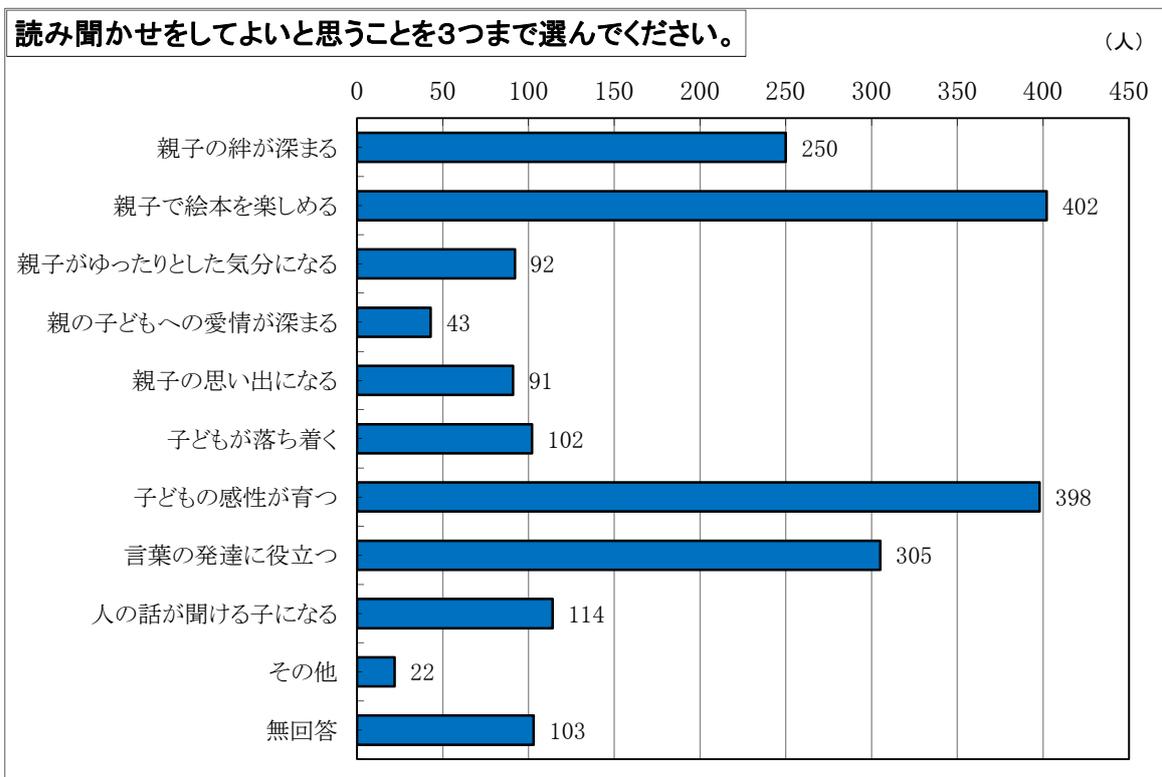
問2-2 1日のうちで、主にどんな時間に読み聞かせをしていますか。



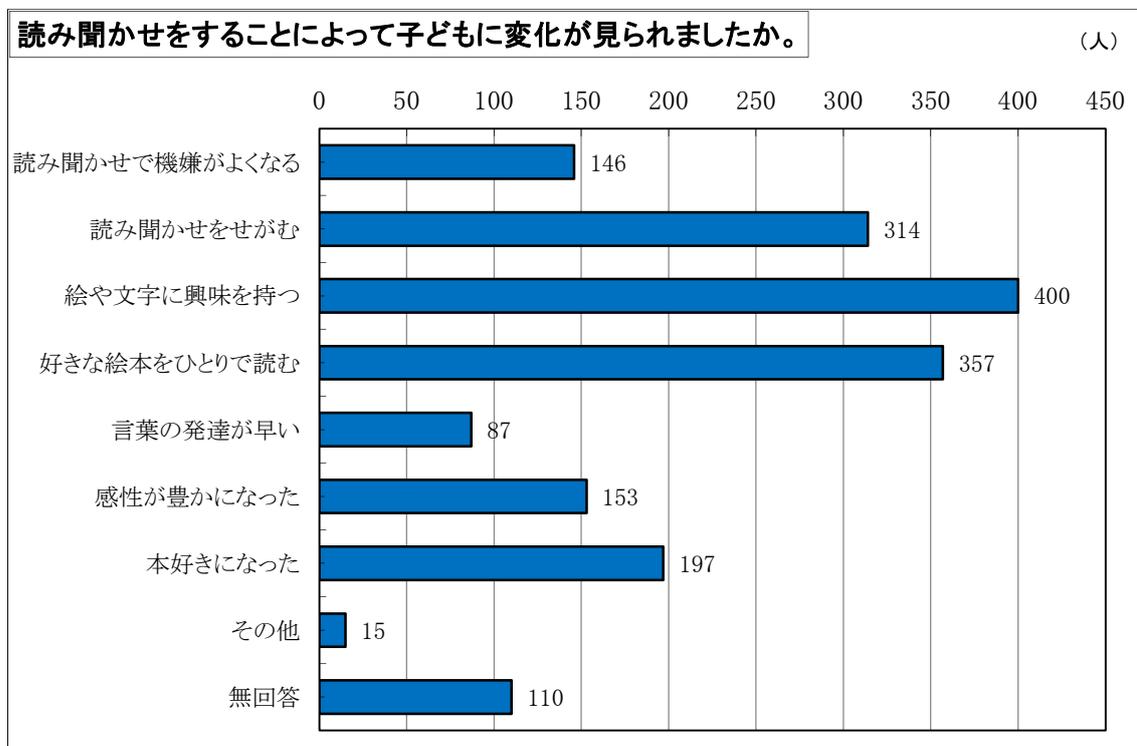
問2-3 読み聞かせの開始時期はいつ頃でしたか。



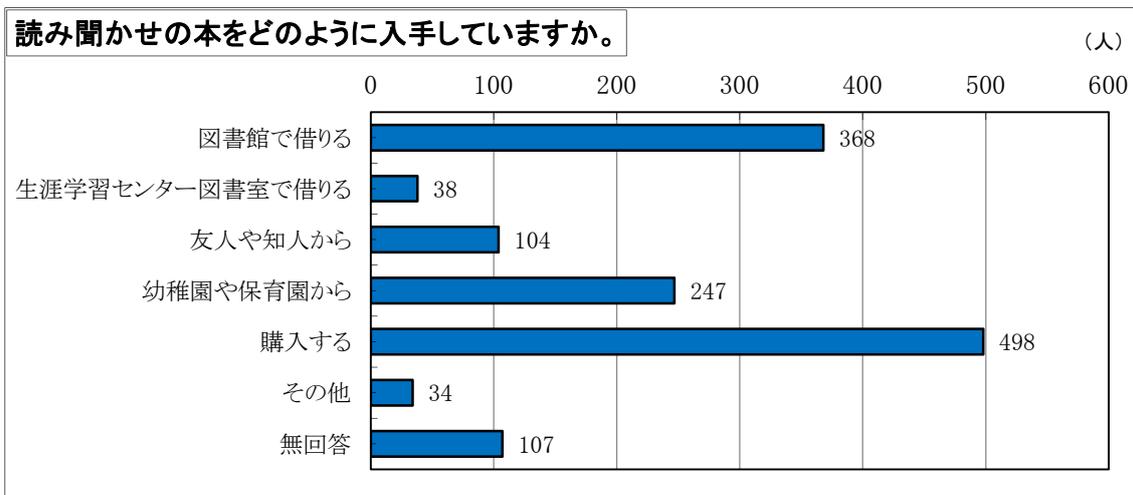
問2-4 読み聞かせをしてよいと思うことを3つまで選んでください。



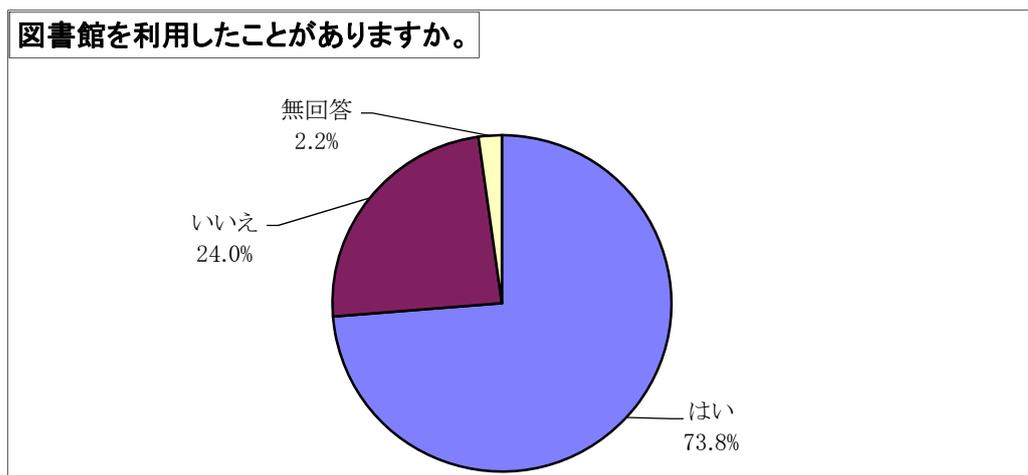
問2-5 読み聞かせをすることによって子どもに変化が見られましたか。



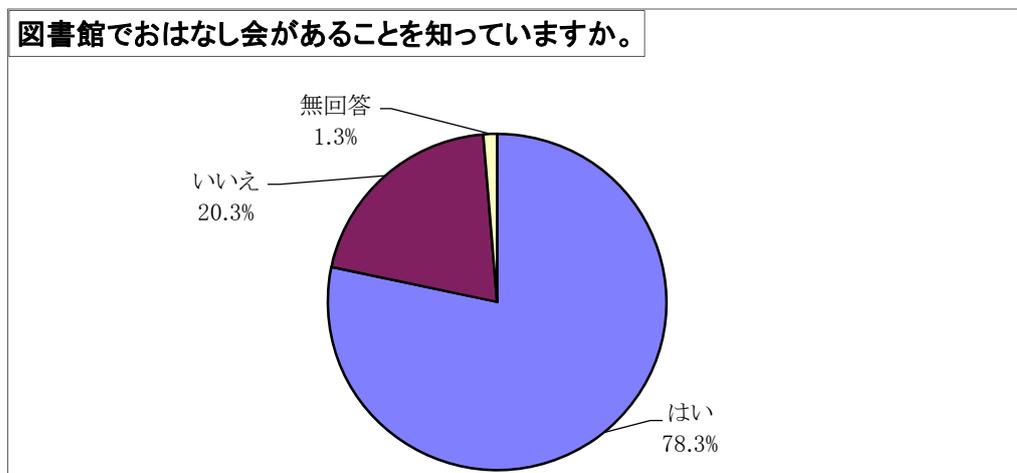
問2-6 読み聞かせの本をどのように入手していますか。



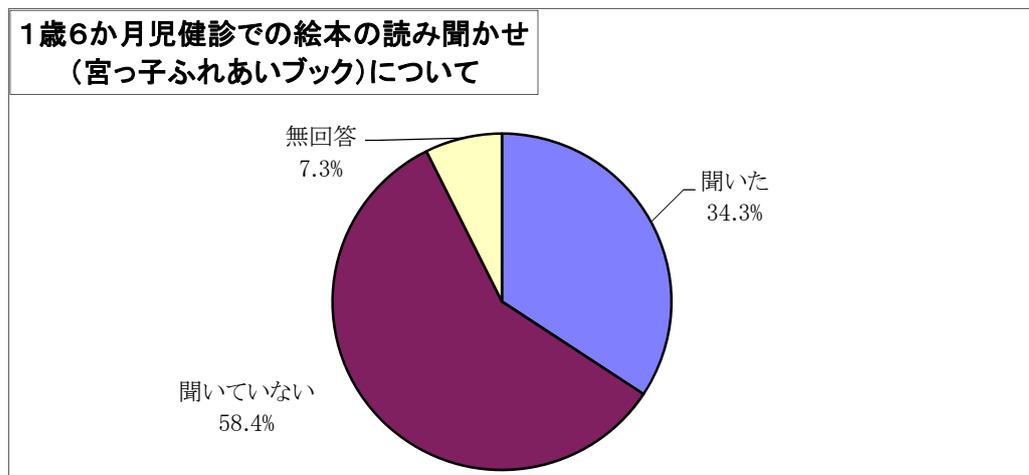
問3 図書館を利用したことがありますか。



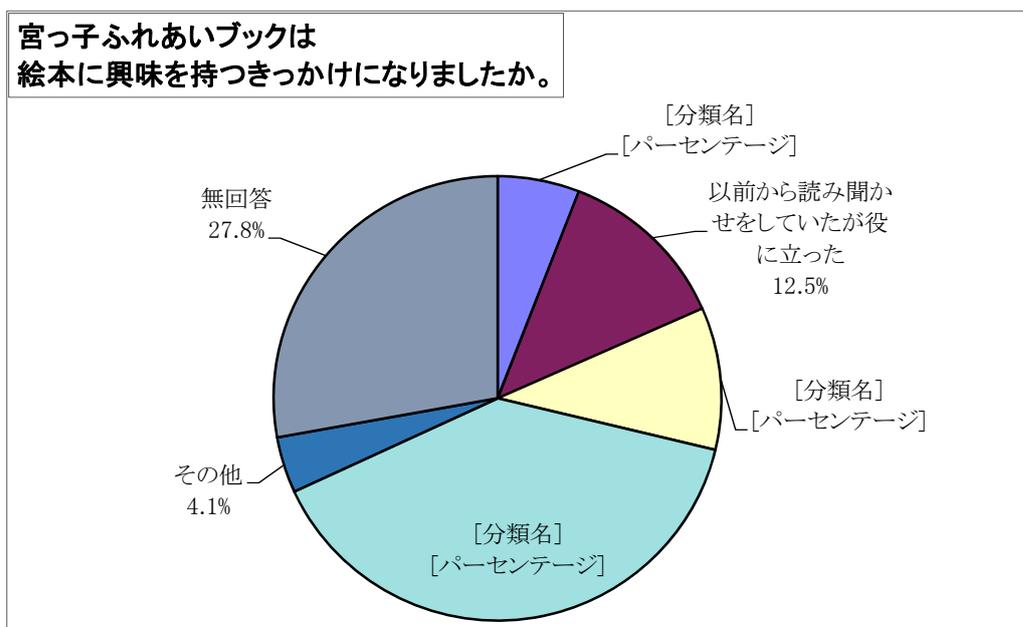
問4 図書館でおはなし会があることを知っていますか。



問5-1 1歳6か月児健診での絵本の読み聞かせ（宮っ子ふれあいブック）について



問5-2 宮っ子ふれあいブックは絵本に興味を持つきっかけになりましたか。

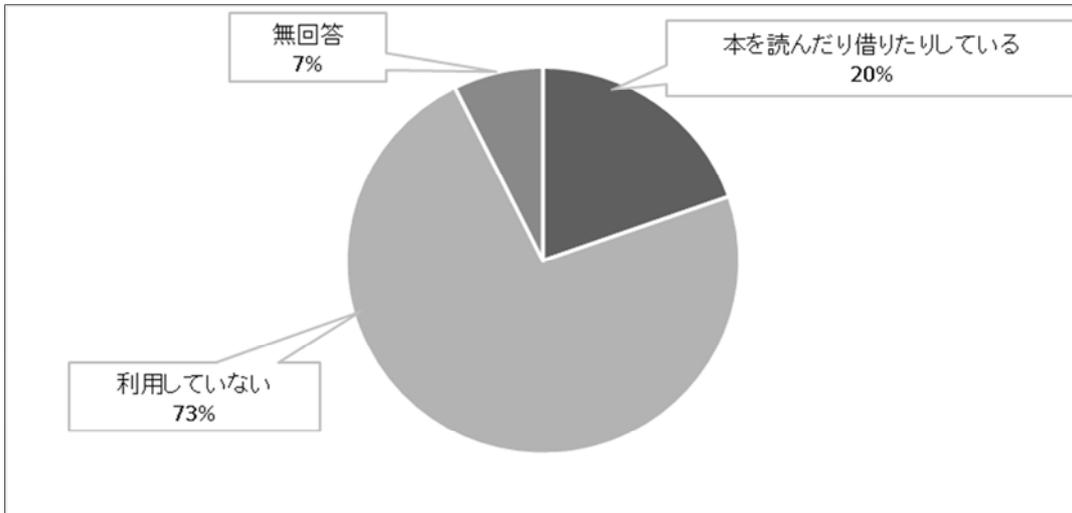


VI 宇都宮市読書推進ガイドブック「HON-miya」に関するアンケート結果（抜粋）

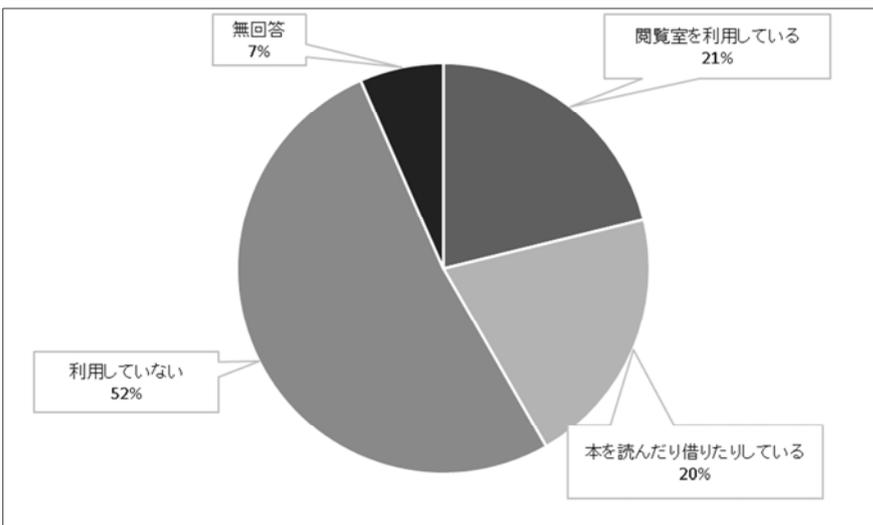
- 1 実施年度 平成27年度
- 2 対象者 高校1年生（宇都宮高等学校，宇都宮東高等学校，宇都宮南高等学校，宇都宮北高等学校，宇都宮清陵高等学校，宇都宮中央女子高等学校，宇都宮白揚高等学校，宇都宮工業高等学校，宇都宮商業高等学校，作新学院高等学校，文星芸術大学附属高等学校，宇都宮文星女子高等学校，宇都宮短期大学附属高等学校，宇都宮海星女子学院高等学校）
- 3 配布数 5,593枚
- 4 回収数 4,904枚（87.7%）
- 5 集計結果

① 図書館の利用について（普段利用）

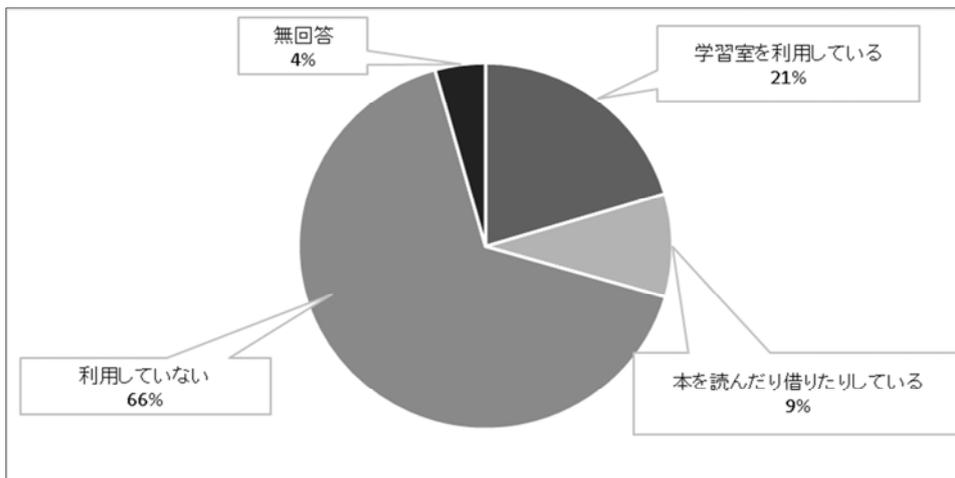
・学校図書館の利用（4,604人回答）



・市立図書館の利用（4,881人回答）



・県立図書館の利用（4,846人回答）



Ⅶ 平成29年度 図書館利用者アンケート結果（抜粋）

1 調査の趣旨

図書館利用者の実態を調査し、利用者のニーズを把握して今後の図書館サービスの向上を図るとともに、「宇都宮市読書活動推進計画」の進捗確認のための基礎資料とする。

2 調査場所

宇都宮市立図書館5館

3 調査対象

一般入館者

4 実施期間

平成29年10月3日（火）から17日（火）までの15日間

※特別整理期間のため中央図書館のみ16日まで

5 調査方法

図書館内で入館者に用紙を配布し、退館時に回収箱で回収する方法

6 回収結果

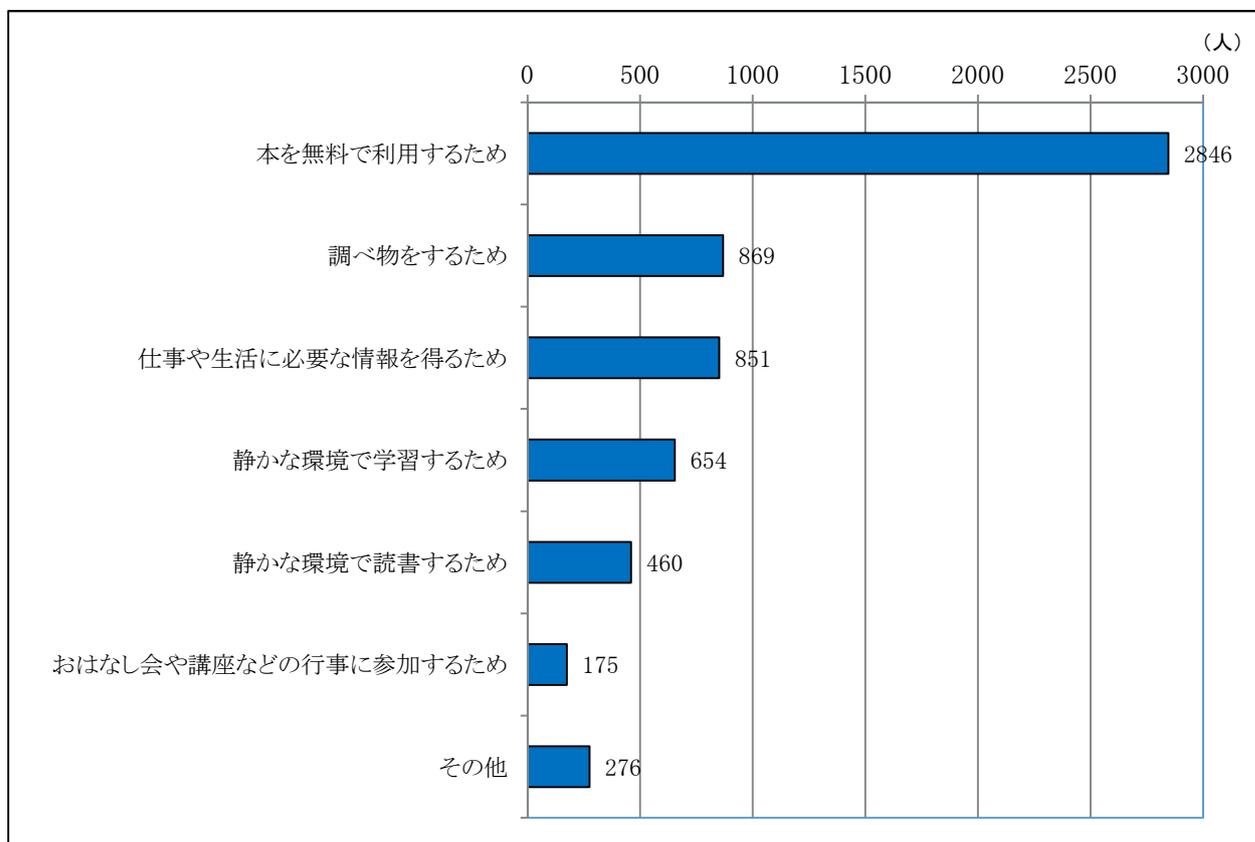
中学生以上： 中央 1,034 枚 東 1,051 枚 南 1,053 枚 上河内 105 枚 河内 294 枚 合計 3,537 枚
小学生： 中央 255 枚 東 318 枚 南 316 枚 上河内 36 枚 河内 87 枚 合計 1,012 枚

7 集計結果

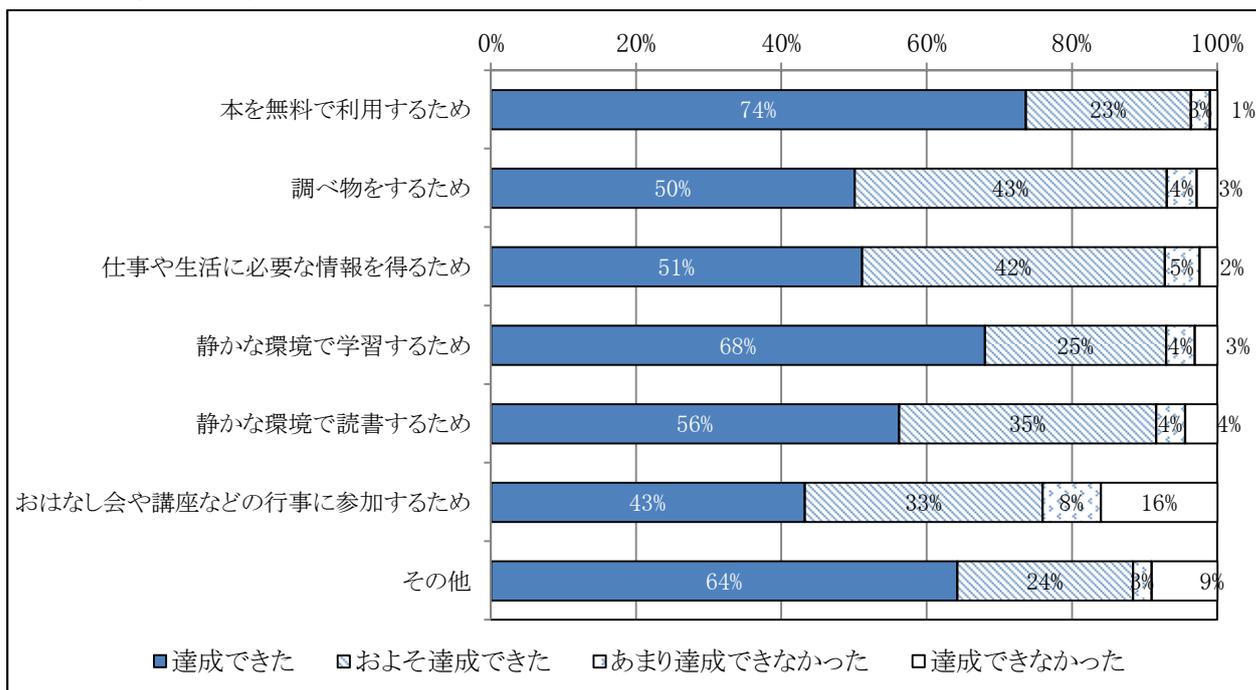
【中学生以上】

① 来館の目的と満足度

- ・来館の目的

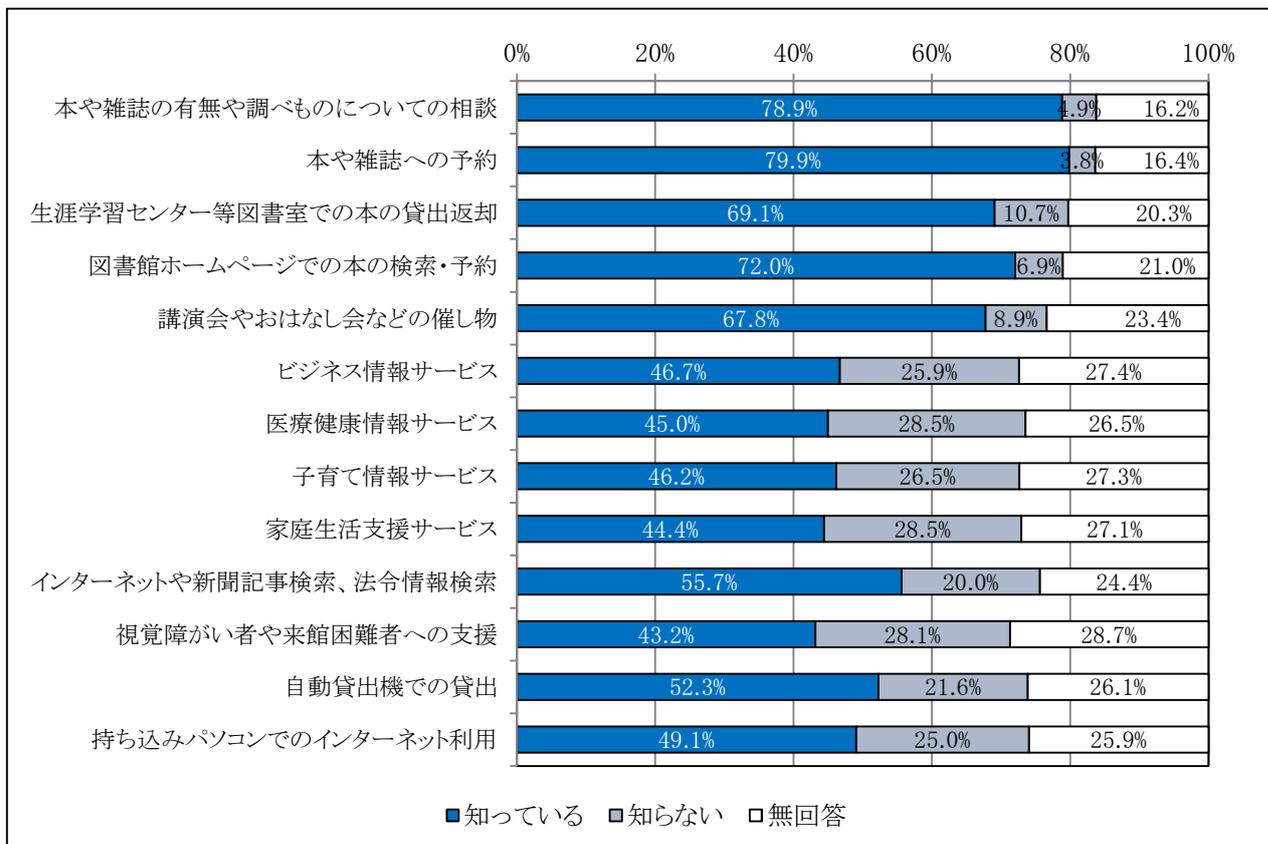


・来館した結果の満足度

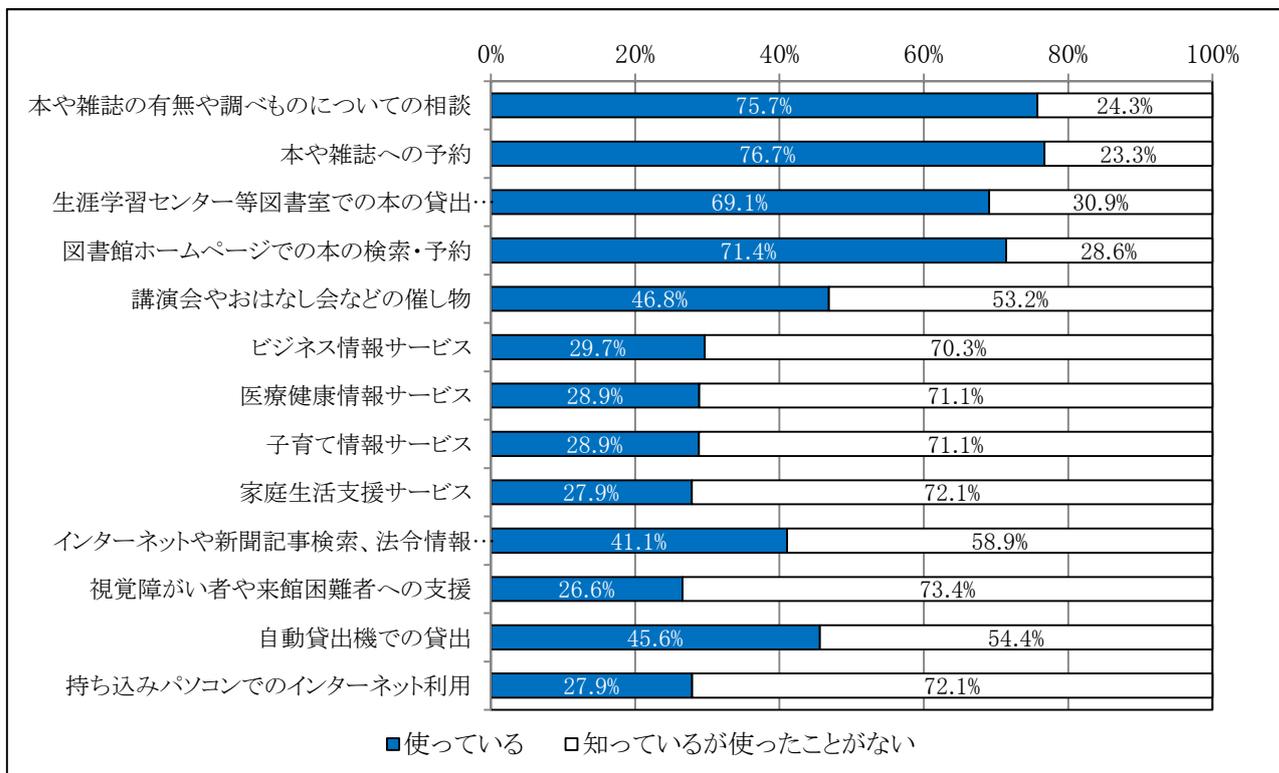


② 図書館サービスの認知度と使用度・満足度

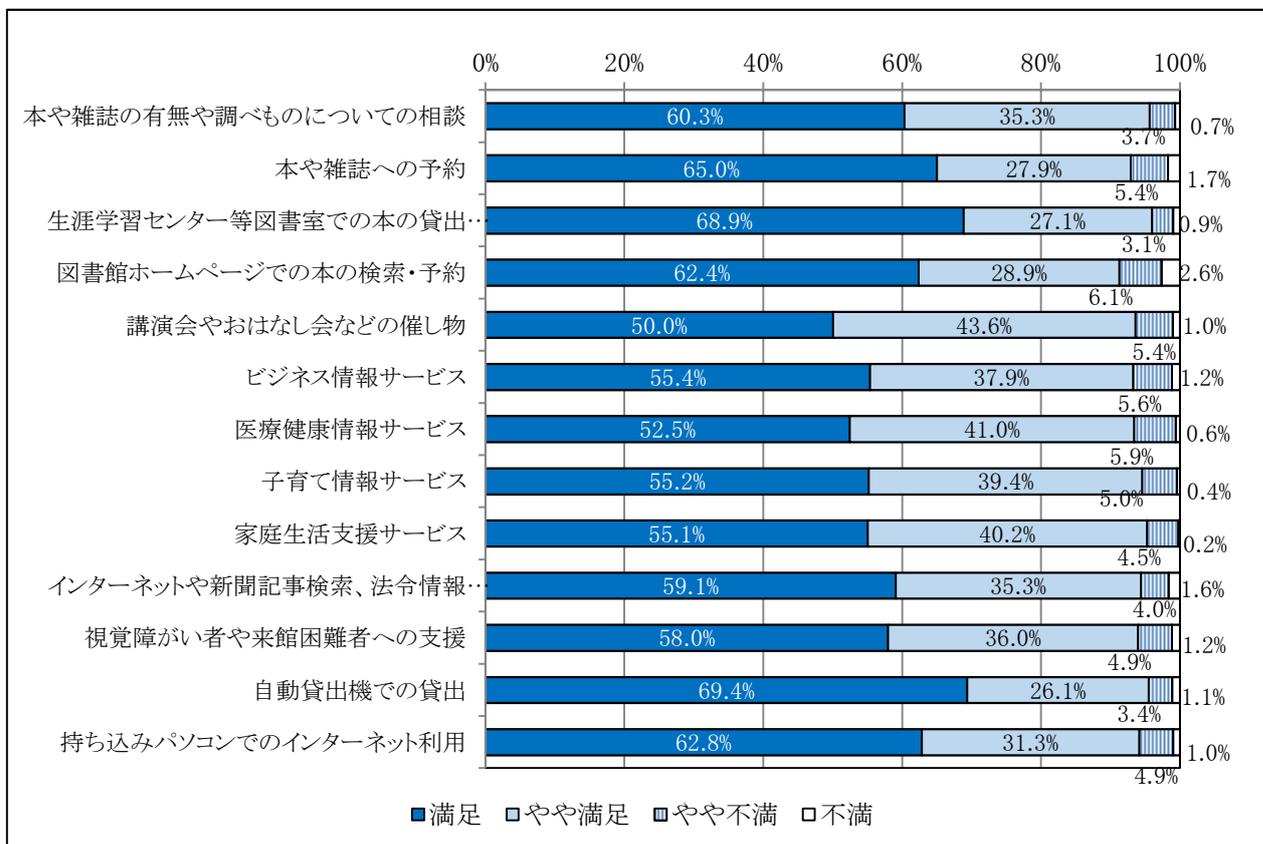
・認知度



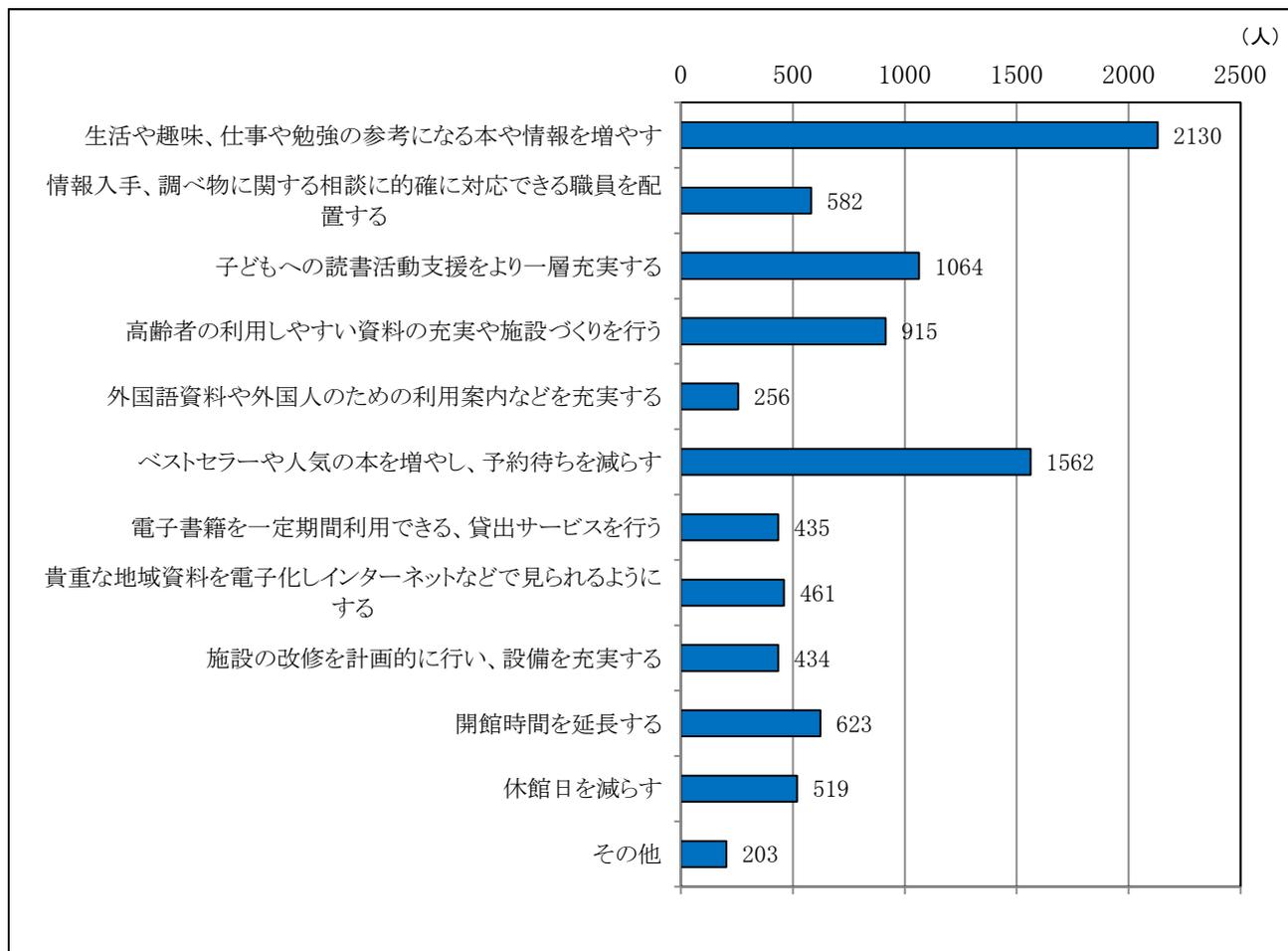
・使用度



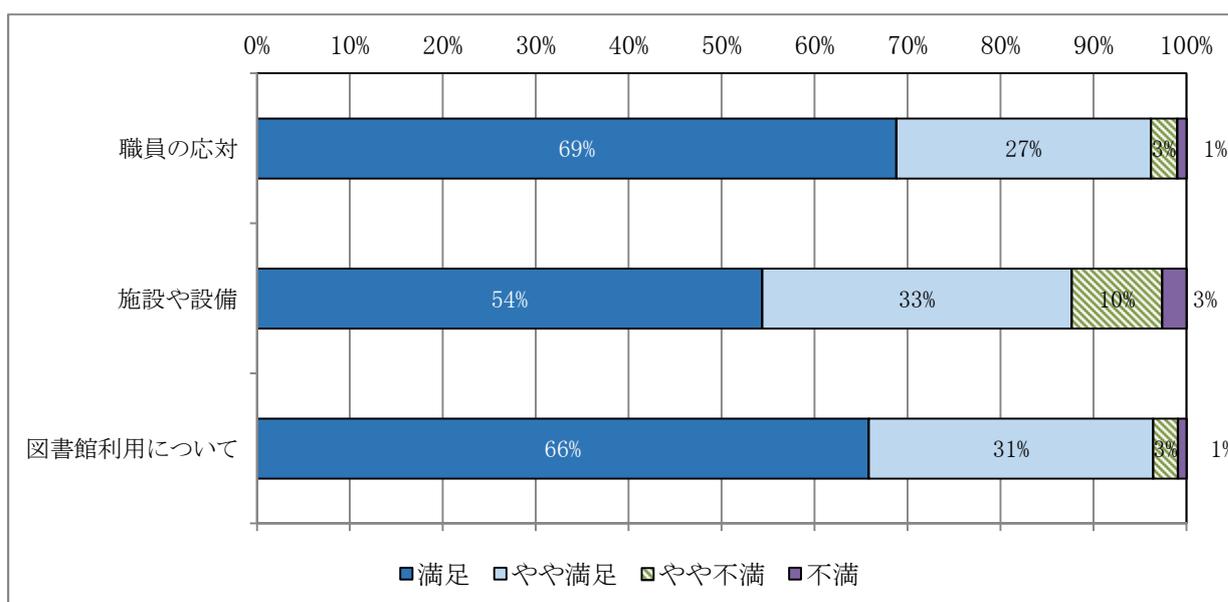
・満足度



③ 図書館が目指すべき方向



④ 職員の対応や施設・設備



資料4 用語解説

行	用語	解説
あ	アウトリーチ	病人や障がい者など、来館が困難で図書館サービスを受けられない人々に対し、図書館が施設等へ出かけてサービスの出前を行うこと。
	あかちゃんタイム	乳幼児を連れた保護者の方が、気兼ねなくゆっくと図書館を利用しただけのようにするための時間帯を設ける事業。平成26年5月から実施し、毎年5月5日と各図書館の「0・1・2歳のおはなし会」の時間をはさんだ午前10時30分から午後0時30分までの2時間、午後5時から7時までの2時間を設定している。
	アグリビジネス	農資源の供給から生産・流通・加工までを含めた産業としての農業。
	うつのみやこども賞	選定委員となった小学校高学年の子ども同士が話し合いで児童文学を評価し受賞作品を選ぶこもの。また、受賞作品を活用し広く子どもの読書活動を啓発することをめざし、昭和59年度から実施している。子どもによる創作児童文学の評価という点で、日本で唯一の事業。
	うつのみやブランドコーナー	餃子など地域が誇るブランドがさらに発展できるよう、地域産業や物産の紹介を目的として平成19年6月より東図書館に設置したコーナーのこと。
	音読教室	シニア世代応援講座のひとつ。脳全体の活性化が期待される音読を、図書館の資料を用いて実施する講座。平成28年度より実施。
か	学校巡回図書サービス	小中学生の学年や教科内容を考慮して選定した1箱40冊のセットを用意し、各小中学校に1箱ずつ送り、毎週巡回することで多くの図書を知ってもらうためのサービス。平成18年度より開始。
	学校図書館司書業務嘱託員	宇都宮市内の小中学校図書館に配置された司書資格を持つ非常勤嘱託員。
	学校パック	学校支援サービスのひとつ。学校希望図書のうち、よく利用されるテーマの図書を、40冊程度を1箱にまとめ、箱単位で貸出するサービス。平成20年2月より開始。
	カフェトーク	講師と受講者がお茶などを飲みながら、気軽な雰囲気の中で特定のテーマについて語り合うイベント。
	行政支援サービス	市職員が業務上必要とする資料を、行政情報センター(本庁)などまで搬送し提供するサービス。平成18年9月から中央図書館が実施。
さ	参考人	平成24年6月社会教育委員の会議において「図書館事業は専門性が高く、利用者も多様であり、社会教育委員の会議の意見を補完するため、専門家や身近な利用者の意見聴取が必要」という意見を受け、同会議の参考となる情報を提供するため、意見聴取を行う有識者等。
	生涯学習センター図書室	市内15箇所の生涯学習センターと田原コミュニティプラザ内に設置された図書室。図書館とのオンラインによる貸出・返却・予約等のサービスを実施。
	生活応援サービス	医療や健康、子育てなど暮らしに深く関わる問題に関し、コーナーを設置するおともに関係機関等とも連携し資料の収集・提供を行うサービス。医療・健康コーナー、子育てコーナー、大活字コーナー、On Japanコーナー、ロングライフコーナーがある。

行	用語	解説
た	地域資料	宇都宮で発行された資料および出版地や出版社は問わず宇都宮に関して記述されている資料のこと。中央図書館において昭和56年の開館以来、郷土資料の収集に力を注いできたが、平成17年度から同時代の資料により力点をおいた「地域資料サービス」に移行。
	デジタルアーカイブ	貴重な資料をデジタル情報で記録し保存する機能。市立図書館では平成29年9月より地域資料についてホームページにて公開を開始している。
	読書コンシェルジュ	県内の高校生世代の読書活動を推進するリーダーのこと。県が平成26年度から始めた高校生読書活動推進事業の取り組みの一つ。
	読書推進ガイドブック (HON-miya)	読書に関心が少なく、図書館を利用したことがない市民に、読書の楽しさに触れるきっかけを作ることを目的に作成した冊子。タイトルは「HON-miya」
は	パスファインダー	利用者の調べ物を支援するため、特定のテーマについて、図書・雑誌・辞典類・インターネットサイトや関連施設などの役立つ情報を紹介したパンフレットのこと。
	ビブリオバトル(書評合戦)	出演者(バトラー)がおすすめ本について5分間のプレゼンを行い、すべての出演者のプレゼンを聞いた聴衆がもっとも読みたくなった本を多数決で決める書評バトル。
	ブックトーク	あるテーマについてあらかじめ選んでおいた数冊の本を紹介すること。子どもの読書への興味を引き出すための手法のひとつ。
	プロスポーツアーカイブ事業	地域のプロスポーツの普及促進を行うためのPRなどの支援事業。
ま	宮っ子	本市読書活動推進において、市内の0～18歳の子どもの総称
	宮の魅力再発見コーナー	宇都宮市に関して特に関心の高い歴史・文化・観光分野の図書やパンフレットを置くコーナー
	MIYATEEN	高校生の読書の傾向を把握し、図書館を通して広く高校生に読書の情報を発信するため、市内の高校生が編集委員として作成する情報誌。平成20年度より実施。
ら	レファレンスサービス	司書による調査相談サービス。利用者の求めに応じて、資料や情報を提供することにより、利用者の調べ物を援助する。



第2次宇都宮市読書活動推進計画

発行：平成30年3月 宇都宮市教育委員会

編集：宇都宮市教育委員会事務局生涯学習課

〒320-8540 宇都宮市旭1丁目1番5号

TEL 028-632-2748

FAX 028-632-2675

E-mail u4606@city.utsunomiya.tochigi.jp

宇都宮市立中央図書館

〒320-0845 宇都宮市明保野町7番57号

TEL 028-636-0231

FAX 028-639-0740

E-mail u47050001@city.utsunomiya.tochigi.jp

